

婦人労働調査資料第70号

勤労婦人の妊娠・出産に関する調査

— 結果報告書 —

昭和49年8月

労働省婦人少年局

勤労婦人の妊娠・出産に関する調査正誤表

誤	正
1) 調査対象者 2) 調査対象者 3) 調査対象者 4) 調査対象者 5) 調査対象者 6) 調査対象者 7) 調査対象者 8) 調査対象者 9) 調査対象者 10) 調査対象者 11) 調査対象者 12) 調査対象者 13) 調査対象者 14) 調査対象者 15) 調査対象者 16) 調査対象者 17) 調査対象者 18) 調査対象者 19) 調査対象者 20) 調査対象者 21) 調査対象者 22) 調査対象者 23) 調査対象者 24) 調査対象者 25) 調査対象者 26) 調査対象者 27) 調査対象者 28) 調査対象者 29) 調査対象者 30) 調査対象者 31) 調査対象者 32) 調査対象者 33) 調査対象者 34) 調査対象者 35) 調査対象者 36) 調査対象者 37) 調査対象者 38) 調査対象者 39) 調査対象者 40) 調査対象者 41) 調査対象者 42) 調査対象者 43) 調査対象者 44) 調査対象者 45) 調査対象者 46) 調査対象者 47) 調査対象者 48) 調査対象者 49) 調査対象者 50) 調査対象者 51) 調査対象者 52) 調査対象者 53) 調査対象者 54) 調査対象者 55) 調査対象者 56) 調査対象者 57) 調査対象者 58) 調査対象者 59) 調査対象者 60) 調査対象者 61) 調査対象者 62) 調査対象者 63) 調査対象者 64) 調査対象者 65) 調査対象者 66) 調査対象者 67) 調査対象者 68) 調査対象者 69) 調査対象者 70) 調査対象者 71) 調査対象者 72) 調査対象者 73) 調査対象者 74) 調査対象者 75) 調査対象者 76) 調査対象者 77) 調査対象者 78) 調査対象者 79) 調査対象者 80) 調査対象者 81) 調査対象者 82) 調査対象者 83) 調査対象者 84) 調査対象者 85) 調査対象者 86) 調査対象者 87) 調査対象者 88) 調査対象者 89) 調査対象者 90) 調査対象者 91) 調査対象者 92) 調査対象者 93) 調査対象者 94) 調査対象者 95) 調査対象者 96) 調査対象者 97) 調査対象者 98) 調査対象者 99) 調査対象者 100) 調査対象者	1) 調査対象者 2) 調査対象者 3) 調査対象者 4) 調査対象者 5) 調査対象者 6) 調査対象者 7) 調査対象者 8) 調査対象者 9) 調査対象者 10) 調査対象者 11) 調査対象者 12) 調査対象者 13) 調査対象者 14) 調査対象者 15) 調査対象者 16) 調査対象者 17) 調査対象者 18) 調査対象者 19) 調査対象者 20) 調査対象者 21) 調査対象者 22) 調査対象者 23) 調査対象者 24) 調査対象者 25) 調査対象者 26) 調査対象者 27) 調査対象者 28) 調査対象者 29) 調査対象者 30) 調査対象者 31) 調査対象者 32) 調査対象者 33) 調査対象者 34) 調査対象者 35) 調査対象者 36) 調査対象者 37) 調査対象者 38) 調査対象者 39) 調査対象者 40) 調査対象者 41) 調査対象者 42) 調査対象者 43) 調査対象者 44) 調査対象者 45) 調査対象者 46) 調査対象者 47) 調査対象者 48) 調査対象者 49) 調査対象者 50) 調査対象者 51) 調査対象者 52) 調査対象者 53) 調査対象者 54) 調査対象者 55) 調査対象者 56) 調査対象者 57) 調査対象者 58) 調査対象者 59) 調査対象者 60) 調査対象者 61) 調査対象者 62) 調査対象者 63) 調査対象者 64) 調査対象者 65) 調査対象者 66) 調査対象者 67) 調査対象者 68) 調査対象者 69) 調査対象者 70) 調査対象者 71) 調査対象者 72) 調査対象者 73) 調査対象者 74) 調査対象者 75) 調査対象者 76) 調査対象者 77) 調査対象者 78) 調査対象者 79) 調査対象者 80) 調査対象者 81) 調査対象者 82) 調査対象者 83) 調査対象者 84) 調査対象者 85) 調査対象者 86) 調査対象者 87) 調査対象者 88) 調査対象者 89) 調査対象者 90) 調査対象者 91) 調査対象者 92) 調査対象者 93) 調査対象者 94) 調査対象者 95) 調査対象者 96) 調査対象者 97) 調査対象者 98) 調査対象者 99) 調査対象者 100) 調査対象者

は し が き

近年、職業生活を続けながら出産する婦人は、増加を続け、年間30万件をこえるにいたりました。

これらの人々が、職業生活と家庭生活の両面にわたって責任をはたしながら、妊娠中及び出産後を通じて健康を保つためには、職場や社会一般のきめ細かい配慮が必要とされます。

一昨年施行された勤労婦人福祉法においても、勤労婦人を雇用する事業主に対して、妊娠中及び出産後の健康管理のために配慮するように努力を求めています。

労働省婦人少年局では、事業主の方々による配慮や措置が円滑に行われるよう行政指導に努めていますが、勤労婦人の母性の健康管理に関する施策の一環として、このたび勤労婦人の妊娠や出産の実情を把握するための調査を実施いたしました。

労働省では今後、この調査結果をもとに、勤労婦人の母性の健康管理のための行政指導を更に充実させていく考えですが、あわせてこの調査結果が、この問題に関心を持たれる方々の御参考になれば幸いです。

なお、この調査の設計及び分析については、松本清一自治医科大学教授、古谷博順天堂大学教授、その他「母性の健康管理に関する専門家会議」のメンバーである先生方に、また、実施については、別紙記載の病・産院の産婦人科の先生方に、それぞれ御協力を頂きました。

これらの方々を始め、この調査に御協力頂いた各位に厚く御礼申し上げます。

昭和49年 8 月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き	
Ⅰ 調査について	1
1 調査の目的	1
2 調査の範囲	1
3 調査事項	1
4 調査の実施時期	1
5 調査方法	1
6 調査機関	1
7 用語の説明	1
Ⅱ 調査結果について	3
1 調査対象者の属性	3
2 出産退職の状況	4
3 業務軽減の状況	5
4 妊娠中の休業状況	5
5 妊娠・分娩等の経過	6
(1) 調査対象者の属性と妊娠・分娩等の経過	6
イ 年齢階級別	6
ロ 初産・経産別	7
ハ 流産経験の有無別	8
ニ 職種別	9
(2) 妊娠中の勤務状況別妊娠・分娩等の経過	12
イ 実労働時間別	12
ロ 残業の有無別	12
ハ 勤務の旗様別	13
ニ 作業姿勢別	14
ホ 作業環境別	14
ヘ 作業の性質別	15
ト 妊娠のための業務の軽減の有無別	16
チ 産前休業の取得状況別	17

I 調査について

(3) 通勤状況別妊婦・分娩等の経過	18
イ 片道の通勤所要時間別	18
ロ 通勤時の苦痛の有無別	19
ハ 通勤の方法別	20
(4) 家庭生活状況別妊婦・分娩等の経過	22
イ 妊娠中の休養・睡眠・栄養の摂取状況別	22
ロ 住宅環境別	23
ハ 家族型態別	23
(5) 妊娠前の生理休暇取得状況別妊婦・分娩等の経過	24
6 国・地方公共団体に対する要望	25
II 他と同種調査との比較	26
1 勤労婦人と家庭婦人との比較	26
2 症状別の勤労婦人に関する他調査との比較	28
(1) つわり強について	28
(2) 後期妊娠中毒症について	28
(3) 流早産の徴候について	28
(4) 貧血について	28
(5) 流早死産について	28
(6) 低体重児について	28

1 調査の目的

妊娠中及び出産後の勤労婦人の健康管理に関する施策の基礎資料とするため、勤労婦人の妊娠・出産と、これを取りまく諸条件の実態を把握することを目的とする。

2 調査の範囲

昭和47年11月20日から昭和48年3月20日までの間に、東京都内を中心とした大都市及び近郊の22病院で出産した勤労婦人約1,000人。

3 調査事項

別添調査票1および2のとおり。

4 調査の実施時期

昭和47年11月20日から昭和48年3月31日まで。

5 調査方法

調査票1については、出産した勤労婦人が記入し、調査票2については、当該勤労婦人を担当した医師、助産婦等が記入。

6 調査機関

労働省婦人少年局 — 調査員

7 用語の説明

本調査で使用了医学用語等の意味は次のとおりである。

つわり強 — つわりの症状が重いため、医師の治療を受けるか、または休業したものをいう。

流産 — 妊娠第4月以降第7月末までの出産をいう。

早産 — 妊娠第8月から分娩予定日より2週間前までの出産をいう。

晚期産 — 分娩予定日より2週間以後の出産をいう。

分娩様式の異常 — 帝王切開及び吸引分娩をいう。

切迫仮死等 — 切迫仮死、臍帯巻絡、心音変化及び回旋異常などをいう。

頸管裂傷等 — 会陰裂傷、陰唇裂傷、会陰伸展不良及び分娩道強靱などをいう。

分娩遅延 — 分娩所要時間24時間以上の分娩をいう。

異常出血 — 分娩時の出血量500ml以上の出血をいう。

仮死産(蘇生) — 胎児が仮死状態で娩出され、娩出後蘇生することをいう。

死産 — 胎児が死亡して生まれた出産をいう。

早期新生児死亡 — 出生後7日以内に死亡することをいう。

低体重児 — 出生時の体重2,500g以下の児をいう。

妊娠の異常 — つわり強、後期妊娠中毒症、流産の徴候、貧血の症状が1または2以上あることをいう。

分娩の異常 — 流産、早産、晚期産、分娩様式の異常、分娩時の異常、分娩遅延、異常出血、仮死産(蘇生)、死産、低体重児および過熟児(出生時4,000g以上)の1または2項目以上に該当する分娩をいう。

Ⅱ 調査結果について

1 調査対象者の属性

この調査の対象となった勤労婦人は、妊娠4ヵ月以降も勤務していた者で昭和47年11月20日から、昭和48年3月20日までの間に、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、大阪、兵庫及び福岡の各都府県の国・公・私立の病院計22カ所での出産したもの983名である。

これらの者の年齢、職種及び出産経緯は次のとおりであった。

まず、年齢は「25歳から29歳」の者が最も多く57.1%、ついで「20歳から24歳」23.5%、「30歳から34歳」15.6%、「35歳以上」3.9%であった。昭和47年の人口動態統計によると、生児を出産した母親の年齢階級別の割合は、「24歳以下」が31.6%、「25歳から29歳」が45.4%、「30歳から34歳」が18.6%、「35歳以上」が4.4%と、今回の調査より、24歳以下の出産者の割合が高い。

また、労働省が昭和43年に行った「婦人労働者の妊娠、出産に関する調査」によると、30歳未満で出産した者の割合は、全体の7割であったが、今回の調査では8割と、30歳未満の者の割合が多くなっている。

職種別の構成は、「一般事務」が最も多く42.5%、ついで「教員」16.9%、「工員」7.3%、「看護婦等」6.2%、「電話交換手」5.7%等であった。このうち「教員」、「看護婦等」及び「保母」に30歳以上の高年出産が多かった(表1)。

表1 年齢階級別・職種別出産者の割合

(%)

	総数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～
総数	100.0	23.5	57.1	15.6	3.9
一般事務	42.5	26.3	56.5	14.1	3.1
店員	5.2	29.4	54.9	7.8	7.8
工員	7.3	34.7	48.6	13.9	2.8
教員	16.9	10.8	62.0	22.9	4.2
看護婦等(注)	6.2	16.4	60.7	19.7	3.3
キーパンチャー・タイピスト	4.0	33.3	61.5	5.1	—
電話交換手	5.7	25.0	53.0	17.9	3.6
保母	2.4	29.2	45.8	12.5	12.5
理・美容師	0.9	22.2	66.7	11.1	—
その他	8.9	19.5	58.6	16.1	5.7

(注) 看護婦・保健婦・助産婦をいう(以下同じ)。

出産経験別には、79.0%が「初産」で、30歳以上の、いわゆる「高年初産」の者は9.6%であった（表2）。

表2 年齢階級別・出産経験別出産者の割合

	総 数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～
総 数	100.0	23.5	57.1	15.6	3.8
初 産	79.0	22.5	46.8	8.2	1.5
経 産	21.0	1.0	10.3	7.4	2.3

2 出産退職の状況

この調査に回答した時点（出産後1週間以内）における勤務意志の有無についてみると、「出産により退職する（した）」と答えた者は37.9%であり、残りは「出産後も働く」あるいは「まだ決めていない」としている。職種別にみると一般事務、店員等では「退職する（した）」者が過半数であるが、教員、看護婦等、保母、電話交換手などでは出産退職者は少ない（表3）。

表3 職種別・出産退職状況

	総 数	退職する（した）	退職しない・決めていない
総 数	100.0	37.9	62.1
一 般 事 務	100.0	52.6	47.4
店 員	100.0	51.0	49.0
工 員	100.0	47.2	52.8
教 員	100.0	7.8	92.2
看 護 婦 等	100.0	18.0	82.0
キーパンチャー・ タイピスト	100.0	41.0	59.0
電 話 交 換 手	100.0	23.2	76.8
保 母	100.0	16.7	83.3
理・美容師	100.0	66.7	33.3
そ の 他	100.0	34.5	65.5

3 業務軽減の状況

「妊娠を理由として業務の軽減を受けた者」は24.7%、「受けなかった者」は75.3%であった。

業務軽減の内容は、「労働時間短縮を含むもの」が多く18.2%であり、ついで「業務量の軽減」3.6%であった。

何らかの業務軽減を受けた者が最も多かった職種は店員で43.1%、ついで教員42.8%、看護婦等の37.7%、保母の33.3%などが多く、反対に少なかったのはタイピスト・キーパンチャー12.8%、一般事務14.1%などであり、理・美容師の場合は、誰も軽減を受けていない。また、労働時間短縮を伴う軽減の状況をみると、教員は36.7%の者が、看護婦等は29.5%の者が、保母は29.2%の者が時短を伴う軽減を受けており、工員の11.1%、一般事務の12.0%、タイピスト・キーパンチャーの12.8%などを大きく上廻った（表4）。

表4 職種別業務軽減の状況

	総 数	軽 減 無	軽 減 有	労働時間短縮等	業務量減	作業姿勢変更	その他
総 数	100.0	75.3	24.7	18.2	3.6	1.1	1.8
一 般 事 務	100.0	85.9	14.1	12.0	1.7	-	0.5
店 員	100.0	56.9	43.1	17.7	11.8	-	13.7
工 員	100.0	65.3	34.7	11.1	11.1	8.3	4.2
教 員	100.0	57.2	42.8	36.7	3.6	1.2	1.2
看 護 婦 等	100.0	62.3	37.7	29.5	6.6	-	1.6
保 母	100.0	66.7	33.3	29.2	4.1	-	-
タイピスト・ キーパンチャー	100.0	87.2	12.8	12.8	-	-	-
電 話 交 換 手	100.0	80.4	19.6	16.1	1.8	-	1.8
理・美容師	100.0	100.0	-	-	-	-	-
そ の 他	100.0	78.2	21.8	13.8	2.3	3.4	2.3

4 妊娠中の休業状況

妊娠中に、「産前休業以外に、妊娠に関係ある事由で、休業した者」は80.1%、「しなかった者」は19.9%であった。

職種別にみて休業の多かったのは、保母 91.7%, 看護婦等 86.9%, 以下工員、タイピスト・キーパンチャー、一般事務などで、少なかったのは理・美容師である。

一方、産前休業取得状況をみると、「産前休業をとった者」60.3%, 「とらなかった者」39.7%で、そのうち、「退職によってとらなかった者」29.5%であった。

職種別に産前休業状況をみると、「休業あり」の率が最も高いのは教員の 89.2%, 最も低いのは休業者のいなかった理・美容師をのぞき店員の 43.1%であった(表5)。

表5 職種別妊娠中の休業状況

	総 数	妊娠に関する 休業		産 前 休 業				
		な し	あ り	な し	退 職	あ り	41 日 以 下	42 日 以 上
総 数	(983) 100.0	19.9	80.1	39.7	29.5	60.3	26.7	33.6
一 般 事 務	(418) 100.0	16.0	84.0	53.8	43.5	46.2	25.6	20.6
店 員	(51) 100.0	31.4	68.6	56.9	37.3	43.1	15.6	27.5
工 員	(72) 100.0	15.3	84.7	38.9	27.8	61.1	29.2	31.9
教 員	(166) 100.0	28.3	71.7	10.8	3.6	89.2	24.1	65.1
看 護 婦 等	(61) 100.0	13.1	86.9	18.0	14.8	82.0	39.4	42.6
保 母	(24) 100.0	8.3	91.7	16.7	16.7	83.3	33.3	50.0
タイピスト・ キーパンチャー	(39) 100.0	15.4	84.6	35.9	25.6	64.1	30.8	33.3
電話交換手	(56) 100.0	21.4	78.6	30.4	23.2	69.6	33.9	35.7
理・美容師	(9) 100.0	55.6	44.4	100.0	66.7	—	—	—
そ の 他	(87) 100.0	25.3	74.7	40.2	24.1	59.8	27.6	32.2

(注) ()内は実数(以下同じ)。

5 妊娠・分娩等の経過

妊娠・分娩等の経過を、年齢・出産・流産歴、妊娠中の勤務状況、通勤状況及び家庭生活等の要素と関連させて検討すると次のとおりである。

イ 調査対象者の属性と妊娠・分娩等の経過

イ 年齢階級別の割合は、20～24歳 23.5%, 25～29歳 57.1%, 30～34歳 15.6%, 35歳以上 3.9%であるが、各群の経過をみると、

妊娠中の経過では、34歳以下の各層間で、特に差は認められなかった。しかし、35歳以上

の層は、34歳以下の各層にくらべ異常の割合が高かったが、なかでも特に後期妊娠中毒症、流産の徴候等の異常が高かった。

分娩の経過では、妊娠中の経過と同様に、34歳以下の層には、特に差は認められなかった。しかし、35歳以上の層は、早産、児切迫仮死等及び異常出血が多く、また微弱陣痛の多い傾向もあるが、逆に分娩遅延は少なかった。

児の状態では、35歳以上の層に低体重児出生率が 10.5%と高い傾向がみられた。

これは、35歳以上層の早産率が 21.1%と高いこと、及び高齢による胎盤機能不全などが原因していると考えられる。

産褥の異常には、年齢階級による顕著な差はみられなかった(表6)。

表6 年齢階級別妊娠・分娩等の経過

		総 数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～
総 数		(983) 100.0	(231) 100.0	(561) 100.0	(153) 100.0	(38) 100.0
妊 娠 中	つわり強	8.0	9.5	7.1	7.2	15.8
	後期妊娠中毒症	31.2	26.8	32.1	31.4	44.7
	流・早産の徴候	29.4	29.4	28.0	30.7	44.7
分 娩	流 産	0.6	1.3	0.4	0.7	—
	早 産	10.5	10.4	10.0	9.8	21.1
	前・早期破水	15.1	16.2	15.5	12.5	13.2
	微弱陣痛	9.8	7.0	10.7	8.6	18.4
	切迫仮死等	9.3	11.4	8.9	5.9	15.8
	分娩遅延	14.4	18.4	14.8	9.2	5.3
	異常出血	9.4	6.6	8.7	13.8	18.4
産 褥	前置胎盤等	1.8	1.3	1.8	2.6	2.6
	死 産	0.6	1.3	0.4	0.7	—
児	低体重児	7.8	7.4	9.0	3.3	10.5
	母乳分泌不良	12.0	14.0	10.9	11.2	18.4
産 褥	復古不全	4.7	3.9	5.2	5.3	—

ロ 初産・経産別の割合は、初産 79.0%, 経産 21.0%であるが、両群の経過をみると、

妊娠中の経過では、両群間に明らかな差がなかった。

分娩の経過では、前・早期破水、微弱陣痛及び分娩遅延の異常が、明らかに初産者に多くみられ

た。しかし、流・早産は経産者に多い傾向がみられた。

児の状態では、仮死産（蘇生）、死産及び低体重児の割合は、経産者に比べ、初産者に多かった。

産褥経過では、母乳分泌不良が、経産者より初産者に多かった（表7）。

表7 初・経産別妊娠・分娩等の経過

		総 数	初 産	経 産
総 数		(983) 100.0	(777) 100.0	(206) 100.0
妊 娠 中	つわり強	8.0	8.1	7.8
	後期妊娠中毒症	31.2	32.2	27.2
	流・早産の徴候	29.4	29.0	31.1
分 娩	流 産	0.6	0.4	1.5
	早 産	10.5	9.9	12.6
	前早期破水	15.1	17.1	7.9
	微弱陣痛	9.8	11.6	3.0
	切迫仮死等	9.3	10.1	6.4
	分娩遅延	14.4	17.4	3.0
	異常出血	9.4	9.4	9.4
	前置胎盤等	1.8	2.1	1.0
児	仮死産（蘇生）	3.4	4.1	0.5
	死 産	0.6	0.8	—
	早期新生児死亡	(0.2)	(0.1)	(0.5)
	低 体 重 児	7.8	8.8	3.9
産 褥	母乳分泌不良	12.0	14.0	4.4
	復古不全	4.7	4.5	5.4

ハ 流産経験の有無別の割合は、「流産経験のない者」89.0%、「ある者」11.0%であるが、両群の経過をみると、妊娠中に流・早産の徴候のあった者や実際に流・早産してしまう者の率が流産経験のある者に高くみられたほかは、顕著な差がみられなかった（表8）。

表8 流産経験の有無別妊娠・分娩等の経過

		総 数	流産経験なし	流産経験あり
総 数		(983) 100.0	(875) 100.0	(108) 100.0
妊 娠 中	後期妊娠中毒症	31.2	31.0	33.3
	流・早産の徴候	29.4	27.2	47.2
分 娩	流・早産	11.1	10.5	15.7
児	死 産	0.6	0.7	—
	低 体 重 児	7.8	8.0	6.5
産 褥	復古不全	4.7	4.7	4.7

ニ 職種別の割合は、さきに述べたように、一般事務が最も多く42.5%、次いで教員16.9%などであるが、これら各群毎に経過をみると、

妊娠中の経過では、つわり強（8.0%）は、電話交換手（21.4%）、保母（16.7%）と高い。電話交換手に高いのは、拘束が強く、神経的に緊張した状態にあることによると考えられる。つぎに後期妊娠中毒症（31.2%）では、教員（16.9%）は低く、理・美容師（44.4%）、店員（39.2%）、一般事務（39.0%）と高い。また、流・早産の徴候（29.4%）では、理・美容師（66.7%）、保母（41.7%）などが高く、貧血（44.3%）は、電話交換手（55.4%）理・美容師（55.6%）などが高くなっている（表9）。

表9 職種別妊娠中の経過

	総 数	つわり強	後期妊娠中毒症	流・早産の徴候	貧 血
計	(983) 100.0	8.0	31.2	29.4	44.3
一 般 事 務	(418) 100.0	7.4	39.0	27.8	46.4
店 員	(51) 100.0	11.8	39.2	33.3	41.2
工 員	(72) 100.0	8.3	37.5	25.0	47.2
教 員	(166) 100.0	6.0	16.9	27.1	41.6
看護婦等	(61) 100.0	8.2	19.7	36.1	44.3
保 母	(24) 100.0	16.7	20.8	41.7	50.0
キーパンチャー・ タイピスト	(39) 100.0	—	30.8	20.5	43.6
電話交換手	(56) 100.0	21.4	26.8	26.8	55.4
理・美容師	(9) 100.0	11.1	44.4	66.7	55.6
そ の 他	(87) 100.0	4.6	24.1	36.8	28.7

分娩経過では、流・早産（11.1％）は、電話交換手（23.2％）、保母（16.7％）、看護婦等（13.1％）に高かった。

前・早期破水（15.1％）では、看護婦等（23.0％）、理・美容師（22.2％）、キーパンチャー・タイピスト（20.5％）は高く、保母（4.3％）、教員（5.5％）は低かった。

また、微弱陣痛（9.8％）は、教員（7.3％）に低く、保母（17.4％）に高率であった。

切迫仮死等（9.3％）は、電話交換手（23.2％）に高かった。

分娩遅延（14.4％）では、保母（8.7％）が低く、電話交換手（21.4％）は高かった。

異常出血（9.4％）は、タイピスト・キーパンチャー（5.1％）が低く、保母（17.4％）は高率であった。

全体として、看護婦等、保母、電話交換手などに分娩の異常が多く、教員などに少なかった（表10）。

表10 職種別分娩の経過

	流 早 産	前・早期破水	微弱陣痛	切迫仮死等	分娩遅延	異常出血
総 数	11.1	15.1	9.8	9.3	14.4	9.4
一 般 事 務	10.8	17.5	10.8	10.6	14.7	9.4
店 員	9.8	15.7	13.7	5.9	13.7	7.8
工 員	9.7	11.3	9.9	1.4	15.5	7.0
教 員	7.8	5.5	7.3	7.9	12.8	10.4
看 護 婦 等	13.1	23.0	11.5	8.2	18.0	13.1
保 母	16.7	4.3	17.4	4.3	8.7	17.4
キーパンチャー・ タイピスト	10.3	20.5	15.4	7.7	12.8	5.1
電 話 交 換 手	23.2	17.9	10.7	23.2	21.4	8.9
理・美 容 師	11.1	22.2	—	11.1	—	—
そ の 他	10.3	17.2	2.3	8.0	12.6	9.2

児及び産褥の経過についてみると

死産（0.6％）は、保母（4.3％）で高かった。低体重児（7.8％）では理・美容師（22.2％）、保母（17.4％）、店員（15.7％）、看護婦等（11.5％）などで高く、電話交換手（3.5％）、教員（4.9％）、キーパンチャー・タイピスト（5.1％）などが低かった。

また、復古不全（4.7％）は、電話交換手（1.8％）で低く、理美容師（11.1％）、保母（8.7％）で高かった。

妊娠中・分娩時・産褥を通じて、理美容師、保母、電話交換手、看護婦等に異常が多くみられた。これは、仕事の性質が、長時間の立業や腹部を圧迫しがちな中腰姿勢をとることが多く、また深夜業を伴う場合もあるなどの悪条件が作用していると思われるほか、労働時間の短縮を伴う業務軽減を受けた者が、少ないことなども原因として考えられよう。

また、教員に異常が少なかったのは、時間短縮等の業務軽減を受けた者が多いこともその一因と考えられる（表11）。

表11 職種別児及び産褥経過

	死 産	低 体 重 児	復 古 不 全
総 数	0.6	7.8	4.7
一 般 事 務	0.7	7.1	5.5
店 員	—	15.7	2.0
工 員	—	8.2	7.0
教 員	—	4.9	2.4
看 護 婦 等	—	11.5	3.3
保 母	4.3	17.4	8.7
キーパンチャー・ タイピスト	2.6	5.1	7.7
電 話 交 換 手	—	3.5	1.8
理・美 容 師	—	22.2	11.1
そ の 他	1.1	9.0	4.6

(2) 妊娠中の勤務状況別妊娠・分娩等の経過

妊娠中の勤務状況を、実労働時間、残業の有無、勤務の態様、作業姿勢、作業環境、作業の性質、業務軽減の有無及び産前休業状況別の8要素に区分し、各々の妊娠・出産状況を検討した。

イ) 実労働時間別の割合は、「1日8時間以上」の者が最も多く48.4%であった。なお、この群では、1日8時間とする者が大部分を占めているが、1日最高では9時間30分の者が若干名いた。次いで「同7～8時間未満」が37.5%であって、「同7時間未満」は1割強の12.9%であった。これと、妊娠・分娩等の経過との関連をみると、

妊娠中の経過では、後期妊娠中毒症や貧血は、労働時間が長い程、頻度が高まる傾向がみられた。

分娩の経過では、「8時間以上」の群に、流産が多い傾向があった。また、7時間未満の群は、他の群より異常出血が少なかった。

児の状況では、労働時間が長くなる程、低体重児出生が多くみられる傾向があった(表12)。

表12 実労働時間別妊娠・分娩等の経過

(%)

	総数	1日7時間未満	1日7～8時間未満	1日8時間以上
総数	(983) 100.0	(127) 100.0	(369) 100.0	(476) 100.0
妊娠中				
後期妊娠中毒症	31.2	29.1	30.1	32.1
流・早産の徴候	29.4	29.1	27.9	30.7
貧血	44.3	38.6	43.6	46.2
分娩				
流産	0.6	—	—	1.3
早産	10.5	16.5	8.9	9.9
前・早期破水	15.1	19.7	13.6	14.7
異常出血	9.4	3.9	10.3	10.0
児				
低体重児	7.8	5.5	7.3	9.0

ロ) 残業の有無別の割合は、ほぼ7割の69.8%が「残業無」であり、「残業している者」は29.2%であった。

低体重児出生の割合は、残業のある群に高い傾向がみられた(表13)。

表13 残業の有無別児の状況

(%)

	総数	1日7時間未満			1日7～8時間未満			1日8時間以上		
		残な業し	月10h未満	月10h以上	残な業し	月10h未満	月10h以上	残な業し	月10h未満	月10h以上
総数	(983) 100.0	(127) 100.0	(110) 100.0	(7) 100.0	(10) 100.0	(369) 100.0	(248) 100.0	(66) 100.0	(55) 100.0	(476) 100.0
低体重児	7.8	5.5	5.4	—	10.0	7.3	6.8	7.5	9.1	9.0

ハ 勤務の態様別割合は、93.9%と大多数が「昼勤のみの者」で、「深夜勤務や交替勤務のある者」は6.1%であった。これらについて妊娠等の経過をみると、

妊娠中の経過については、深夜業等のある勤務態様の群に、後期妊娠中毒症、流早産の徴候等、妊娠中の異常が多い傾向がみられた。

分娩の経過については、深夜業等のある群は、流早産、前早期破水、微弱陣痛、分娩遅延等の分娩異常が多い傾向がみられた。

児の状況についてみると、深夜業等のある群に低体重児出生の割合が高い傾向がみられた(表14)。

表14 勤務態様別妊娠・分娩等の経過

(%)

	総数	昼勤のみ	深夜勤務 交替勤務 } あり
総数	(983) 100.0	(923) 100.0	(60) 100.0
妊娠中			
後期妊娠中毒症	31.2	31.0	35.0
流・早産の徴候	29.4	29.1	33.3
貧血	44.3	44.2	45.0
分娩			
流・早産	11.1	10.8	16.7
前・早期破水	15.1	14.7	21.7
微弱陣痛	9.8	9.5	15.0
分娩遅延	14.4	14.2	18.3
児			
低体重児	7.8	7.5	13.1

＝ 作業姿勢別の割合は、「腰かけ作業」が最も多く50.6％、次いで「立ったり坐ったりの作業」25.4％、「立作業」17.4％などであるが、これらについて妊娠等の経過をみると、

妊娠中の経過については、これまでに立作業が妊娠経過に悪影響を及ぼすとの調査結果がみられるが、今回の調査では、特段の違いが見出せなかった。一方、「中腰作業の者」は、極く少数であるが、後期妊娠中毒症、流早産の徴候、貧血の者が多い傾向がみられた。

分娩の経過では、立作業群に、前早期破水の割合が高い傾向がみられた。

児の状況では、中腰作業群に低体重児が多くみられた（表15）。

表15 作業姿勢別妊娠・分娩等の経過

	総数	立作業	歩き作業	中腰作業	腰かけ作業	立ったり坐ったり作業	その他
総数	(983) 1000	(171) 1000	(47) 1000	(6) 1000	(497) 1000	(250) 1000	(12) 1000
妊娠中							
後期妊娠中毒症	31.2	27.5	29.8	33.3	32.4	29.6	75.0
流・早産の徴候	29.4	28.7	29.8	66.7	28.8	29.6	41.7
貧血	44.3	45.0	25.5	66.7	46.7	42.0	41.7
分娩							
流・早産	11.1	10.0	10.6	33.3	10.9	12.0	8.3
前・早期破水	15.1	20.0	14.9	—	15.4	11.6	16.7
児							
低体重児	7.8	7.6	12.5	50.0	7.0	7.5	8.3
産褥							
復古不全	4.7	4.7	4.3	—	5.3	3.6	8.3

ホ 作業環境別の割合は、「高温」、「低温」、「ほこり」、「臭気あり」、「騒音あり」など、何らかの問題があると考えられる環境に働く者の割合は65.1％であった。これについてみると、「高温」または「低温」など、温度環境に問題のある場合、妊娠経過に異常の多い傾向がみられた。また、「ほこり・臭気」、「騒音」では、つわり強の者の割合、「悪い条件が重複している」群では、貧血の割合が高い傾向がみられた。

分娩の経過について、問題のある環境下では、流早産（13.0％）、低体重児出産（9.5％）の割合が高かった。これは、高温や冷房による低温など温度環境が不良の所で、強くみられた。

また、前早期破水、分娩遅延は、問題のある環境下で多い傾向がみられた（表16）。

表16 作業環境別妊娠・分娩等の経過

	総数	高温	低温	うち冷房	ほこり・臭気	騒音	重複	小計	該当なし
総数	(983) 1000	(25) 1000	(125) 1000	(85) 1000	(178) 1000	(108) 1000	(204) 1000	(640) 1000	(343) 1000
妊娠中									
つわり強	8.0	16.0	6.4	8.2	10.7	9.3	6.9	8.6	7.0
後期妊娠中毒症	31.2	44.0	37.6	35.3	30.3	28.7	25.5	30.5	32.7
流・早産の徴候	29.4	32.0	30.4	32.9	23.0	30.6	30.9	28.6	30.9
貧血	44.3	48.0	48.0	60.0	21.3	22.2	60.8	40.3	51.6
分娩									
流・早産	11.1	12.0	13.6	16.5	10.7	11.1	15.7	13.0	7.6
前・早期破水	15.1	20.0	18.4	25.9	11.2	16.7	18.8	16.3	13.0
分娩遅延	14.4	16.0	10.4	9.4	15.7	13.9	19.3	15.5	12.4
児									
低体重児	7.8	12.0	8.7	11.8	10.1	8.2	9.8	9.5	4.7
産褥									
復古不全	4.7	8.0	4.0	3.5	5.6	1.9	4.0	4.2	5.6

ヘ 作業の性質によって、全体を「何らかの負担を特に強いられると思われる群」（81.8％）と「それらのいずれにも該当しない性質の作業群」（18.2％）とに分け、何らかの負担を特に強いられる群をさらに、「精神的緊張を強いられる」など、7要素に区分して、各群間の、妊娠・分娩・産褥および児の経過をみると、「該当せず」の群に流早産の徴候を示す者が多かったほかは、妊娠中・分娩等の経過に、両群間の顕著な差はみられなかった（表17）。

表17 作業の性質別妊娠・分娩等の経過

関

		総 数	負担強 と思われる 性質	精 神 的 緊 張	同 動 作 反 復	長 時 間 同 姿 勢	運搬 り 階段 昇降 多・振 動等 あり	精 他 神 的 要 素 重 複	同 姿 勢 で 同 動 作 反 復	精 除 神 的 要 素 重 複	該 当 な し
総 数		(983) 100.0	(804) 100.0	(193) 100.0	(46) 100.0	(148) 100.0	(46) 100.0	(265) 100.0	(37) 100.0	(69) 100.0	(179) 100.0
妊 娠 中	つわり強	8.0	8.6	6.8	9.5	9.5	11.8	9.8	10.8	8.7	5.6
	後期妊娠中毒症	31.2	30.7	31.1	19.6	31.1	23.5	32.1	29.7	40.6	33.5
	流・早産の徴候	29.4	26.9	25.9	21.7	27.0	41.2	29.8	24.3	21.7	40.8
	貧血	44.3	44.3	37.3	58.7	51.4	47.1	45.7	43.2	34.8	44.1
分 娩	流産	0.6	0.7	0.5	—	—	2.2	0.8	—	2.9	—
	早産	10.5	9.7	9.8	15.2	8.1	6.5	9.8	8.1	11.6	14.0
児 産 褥	低体重児	7.8	8.3	6.7	13.0	4.0	6.2	10.6	5.2	14.1	5.7
	復古不全	4.7	5.1	2.6	2.2	3.4	25.0	5.7	13.5	7.2	2.8

ト 業務軽減の有無別割合をみると、妊娠のため「業務の軽減を受けた者」は、24.7%と全体の4分の1弱であり、このうち、「労働時間の短縮を伴う者」は、18.2%であった。また、「深夜勤務や交替勤務のある者で、それらの勤務を含め、何らの軽減も受けなかった者」は2.6%であった。

妊娠中及び分娩等の経過をみると、「時短を伴う業務軽減を受けた者」は、何ら軽減をされなかった者に比べ、後期妊娠中毒症の発生率が低いなど、その効果があったと考えられる。一方、「深夜勤務等がありながら、軽減されなかった者」は、後期妊娠中毒症(65.4%)、早産(26.9%)と異常が多く、また、流・早産の徴候や、低体重児出生の率も高い傾向を示し、この勤務態様が、妊娠・分娩等の経過に好ましくない影響を及ぼしていることが考えられる(表18)。

表18 業務軽減の有無別妊娠・分娩等の経過

関

		総 数	軽 減 有	うち時短あり	軽 減 無	うち深夜勤あり
総 数		(983) 100.0	(243) 100.0	(179) 100.0	(740) 100.0	(26) 100.0
妊 娠 中	後期妊娠中毒症	31.2	25.9	22.9	33.3	65.4
	流・早産の徴候	29.4	30.5	29.1	29.1	38.5
分 娩	早産	10.5	9.9	7.8	10.7	26.9
児 産 褥	低体重児	7.8	8.6	7.3	7.5	14.8
	復古不全	4.7	2.9	3.4	5.3	—

チ 産前休業前に退職した者は、全体の約3割であるが、退職しなかった者について産前休業の取得状況をみると、「42日以上休んだ者」が最も多く(47.6%)、ついで「21~35日」が多い(18.2%)。そのあと、「36~41日」(12.4%)、「1~20日」(7.4%)、「休業しなかった」(14.4%)が続いているが、休業しなかった者のうち、「流早産のためにとれなかった」としている者が3.0%ある。

以上の各群について、妊娠・分娩・産褥の経過をみると、後期妊娠中毒症、早産、低体重児の異常が、42日以上群に少ないが、復古不全は、逆に休業日数が多くなる程増加の傾向を示した。

また、「1~20日」、「21~35日」の群に早産(各々33.3%、19.0%)の割合が高いのは、早産のために休業日数42日をとれなかった、としている者が含まれていることにもよる(表19)。

表19 産前休業日数別妊娠・分娩等の経過

(例)

	総 数	0 日	うち流早 産のため	1～20日	21～35日	36～41日	42日以上	産休前に 退 職
	(983) 1000	(100) 1000	(21) 1000	(51) 1000	(126) 1000	(86) 1000	(330) 1000	(290) 1000
妊 娠 中								
後期妊娠中毒症	31.2	38.0	28.6	25.5	38.1	29.1	21.8	38.3
流・早産の徴候	29.4	35.0	76.2	27.5	35.7	27.9	31.2	23.4
分 娩								
流 産	0.6	6.0	28.6	—	—	—	—	—
早 産	10.5	15.0	33.3	33.3	19.0	3.5	4.2	10.3
児								
低 体 重 児	7.8	12.6	53.3	13.7	10.1	7.0	4.2	8.5
産 褥								
復 古 不 全	4.7	4.3	—	—	3.2	4.7	6.4	4.5

(3) 通勤状況別妊娠・分娩等の経過

妊娠中の通勤状況を、片道の通勤所要時間、通勤時の苦痛、及び通勤方法の3要素に区分して、それぞれの妊娠・分娩等の経過を検討した。

イ 片道の通勤所要時間別の割合をみると、「30分以下」が最も多く41.1%、次いで「31～60分」の37.4%であり、「61分以上」の遠距離通勤は17.0%である。

妊娠中の経過については、これまでに行われた調査（森山昭和42，東大昭和44）では、通勤時間の長さに比例してつわり症状が重くなるとされ、また、長時間の通勤は一般に妊娠経過全般に悪影響を与えるといわれていたが、今回調査ではつわり、中毒症、貧血と通勤所要時間の長さについての相関関係が明らかでなかった。しかし、流早産の徴候があった者の割合は「61分以上」に高い傾向がみられた。

分娩の経過では、流早産に関しては、妊娠時に流早産の徴候が多かった「61分以上」の群と「30分以下」の群との間に顕著な差がなかった。

児の状況では、通勤所要時間が61分以上の群は、60分以下の群にくらべて死産の率が高かった。しかし、低体重児と復古不全については、通勤時間の長短による差がみられなかった（表20）。

表20 通勤所要時間（片道）別妊娠・分娩等の経過

(例)

	総 数	30分以下	31～60分	61分以上
	(983) 1000	(404) 1000	(368) 1000	(167) 1000
妊 娠 中				
つ わ り 強	8.0	8.4	8.2	7.8
後期妊娠中毒症	31.2	35.1	25.3	35.9
流・早産の徴候	29.4	29.7	26.4	35.9
貧 血	44.3	46.8	44.3	39.5
分 娩				
流・早産	11.1	11.3	10.6	12.6
前・早期破水	15.1	15.9	14.6	13.2
微弱陣痛	9.8	9.7	9.9	10.2
異常出血	9.4	8.4	10.7	10.8
児				
死 産	0.6	0.5	0.3	1.8
低 体 重 児	7.8	9.8	6.0	8.3
産 褥				
復 古 不 全	4.7	5.5	3.3	4.8

ロ) 通勤時の苦痛の有無別割合をみると、「苦痛あり」とする者44.9%（うち「階段昇降多し」とするもの23.7%）、「苦痛なし」とする者55.1%であるが、これらの経過をみると、

妊娠中の経過については、通勤時の苦痛の有無による明らかな差は認められなかったが、「苦痛あり」の群に、妊娠中毒症を除いて、若干、異常の多い傾向があった。

分娩時の異常についても、苦痛の有無による明らかな差は認められなかったが、「苦痛あり」で「階段が多かった者」に、流・早産、微弱陣痛、異常出血の率が高い傾向がみられた。

低体重児は、「苦痛ありの者」が「苦痛なしの者」より高い傾向があり、特に、このうち「階段多し」の群では、明らかに低体重児出生率が高かった。

また、死産も、「階段多し」に多い傾向がみられた。

これらのことから、通勤時間の長短よりも、苦痛の有無の方が、更に苦痛ありの中では、階段の多い方が妊娠・分娩、産褥に悪影響を及ぼしているように思われる（表21）。

表21 通勤時の苦痛の有無別妊娠・分娩等の経過

		総 数	苦 痛 あり	階段多し	苦 痛 なし
総 数		(983) 100.0	(441) 100.0	(233) 100.0	(498) 100.0
妊 娠 中	つ わ り 強	8.0	10.0	9.4	6.6
	後期妊娠中毒症	31.2	29.3	28.3	33.3
	流・早産の徴候	29.4	30.8	31.8	28.3
	貧 血	44.3	47.6	42.1	41.8
分 娩	流・早 産	11.1	11.8	16.8	10.8
	前・早期破水	15.1	13.2	13.4	16.4
	微弱陣痛	9.8	11.4	14.3	8.5
	異常出血	9.4	10.5	13.0	9.1
児	死 産	0.6	0.9	1.7	0.4
	低 体 重 児	7.8	9.2	12.3	7.0
産 褥	復 古 不 全	4.7	4.3	5.6	4.7

ハ 通勤の方法によって、全体を「徒歩」(16.6%)、「自転車」(1.1%)、「自家用車」(6.8%)、うち「本人運転」(1.8%)、「主にバス」(16.0%)、「主に電車」(45.8%)、「バスと電車と半々」(7.2%)、「その他」(2.1%)の7群に分けて、各群間の妊娠・分娩及び児の状況をみると、

妊娠中の経過について、後期妊娠中毒症(31.2%)は、「徒歩」で高率(36.8%)であったほか、「自家用車」(37.3%)に高い傾向がみられた。

分娩時の経過をみると、「バス」の群に流早産の率が高い(14.0%)傾向がみられ、また「自家用車」にも同様の傾向がみられたことから、自動車の振動は、妊娠の持続に好ましくない影響を与えていることが考えられる。

児の状況をみると、低体重児の出生率は、「バス」利用群に高く(10.2%)、「自家用車」利用群は低い(1.5%)。

一般的にいて、早産率が高ければ、低体重児出生の可能性も高まるであろうが、自家用車利用群にそうした相関のみられないのは、生活実態に違いがあるのかも知れない(表22)。

表22 通勤方法別妊娠・分娩等の経過

		総 数	徒 歩	自 転 車	自 家 用 車	主 本人 運転	主 に バス	主 に 電車	バ 電 車 半 と 々	そ の 他
総 数		(983) 100.0	(163) 100.0	(11) 100.0	(67) 100.0	(18) 100.0	(157) 100.0	(450) 100.0	(71) 100.0	(21) 100.0
妊 娠 中	つ わ り 強	8.0	8.0	18.2	6.0	—	8.3	7.8	9.9	14.3
	後期妊娠中毒症	31.2	36.8	27.3	37.3	38.9	28.7	31.1	22.5	28.6
	流・早産の徴候	29.4	34.4	18.2	29.9	33.3	29.3	29.6	22.5	23.8
	貧 血	44.3	44.2	36.4	40.3	33.3	43.3	48.0	36.6	23.8
分 娩	流 産	0.6	—	—	—	—	1.3	0.9	—	—
	早 産	10.5	9.2	9.1	13.4	11.1	14.0	9.8	8.5	19.0
児	低 体 重 児	7.8	7.9	18.2	1.5	5.6	10.2	8.2	9.7	—

また、バス及び電車を利用する者のうち、「常に腰かけていた者」は、「ひどい混雑の中で常に立っていた者」にくらべて低体重児の出生率が低い傾向がみられ、交通機関の混雑が、胎児の発育に悪影響を及ぼしていると考えられる(表22-2)。

表22-2 交通機関の混雑程度別低体重児出生率

		総 数	常に腰かけ ていた	時々腰かけ ていた	肩のふれ合 う車中で常 に立っていた	ひどい混雑 の中で常に 立っていた	そ の 他
総 数		(678) 100.0	(155) 100.0	(270) 100.0	(119) 100.0	(117) 100.0	(17) 100.0
低 体 重 児		8.8	6.5	9.6	7.6	10.3	16.7

(本表は、「バス」、「電車」、「バスと電車」各機関の利用者計を総数とする。)

(4) 家庭生活状況別妊娠・分娩等の経過

妊娠中の家庭生活状況を、休養・睡眠・栄養の摂取状況、家族構成別・住宅環境別の状況に分けて、妊娠・分娩等の経過を検討した。

イ 妊娠中の休養・睡眠・栄養の摂取状況をみると、約半数（48.9％）の者が、この「三つともとれた」としている。ついで、「休養や睡眠がとれなかった」とする者が約4割（40.4％）いた。「三つともとれなかった」とする者は6.8％であった。

これらの摂取状況別に妊娠・分娩等の経過をみると、「栄養とれず」、「休養・睡眠・栄養とれず」の群に、流産の徴候、低体重児出生の率が高かった。

つわり強は栄養のとれなかった群に多いが、これは栄養のとれない者が、つわり症状が重いということではなく、むしろつわりのために栄養のとれない者が多かったためと考えられる。

また、これらの群では、後期妊娠中毒症、早産等の発生率の高い傾向がみられた。

さらに、「休養や睡眠のとれなかった」群では、早産・低体重児出生の率が高い傾向がみられた。

これらのことから、妊娠中、休養や睡眠・栄養が十分とれる環境づくりが望まれる（表23）。

表23 妊娠中の睡眠・休養・栄養の摂取状況別妊娠・分娩等の経過

		総 数	休養・睡眠・ 栄養ともとれ た	栄養はとれた が休養・睡眠 とれず	休養・睡眠は とれ栄養とれ ず	休養・睡眠・ 栄養ともとれ ず
総 数		(983) 100.0	(481) 100.0	(397) 100.0	(38) 100.0	(67) 100.0
妊 娠 中	つ わ り 強	8.0	7.9	5.5	31.6	10.4
	後期妊娠中毒症	31.2	30.6	30.7	39.5	34.3
	流・早産の徴候	29.4	29.9	25.9	39.5	40.3
	貧 血	44.3	45.1	42.6	34.2	53.7
分 娩	流 ・ 早 産	11.1	9.1	11.6	15.8	19.4
児	低 体 重 児	7.8	4.8	9.8	15.4	14.1
産 褥	母乳分泌不良	12.0	9.8	12.6	34.2	11.1
	復古不全	4.7	4.4	4.3	10.5	6.3

ロ 住宅環境の良・不良の割合は、「良とする者」57.0％、「不良とする者」43.0％で、そのうちの28.4％が「階段の昇降多し」と答えている。これらについて妊娠等の経過をみると、

妊娠中の経過については、後期妊娠中毒症や貧血が不良群に高い傾向にあった。

分娩経過では、流産が不良群であっても階段多しの群に高い傾向がみられた。

児の状況では、低体重児が、不良群に多い傾向がみられた（表24）。

表24 住宅環境別妊娠・分娩等の経過

		総 数	良	不 良	階段多し
総 数		(983) 100.0	(560) 100.0	(423) 100.0	(279) 100.0
妊 娠 中	後期妊娠中毒症	31.2	29.1	34.0	32.3
	流早産の徴候	29.4	32.3	25.5	26.9
	貧 血	44.3	42.9	46.1	45.2
分 娩	流 産	0.6	0.4	0.9	1.1
	早 産	10.5	11.1	9.7	7.5
児	低 体 重 児	7.8	7.4	8.3	6.8

ハ 家族型別割合では、「核家族型」が80.4％、「その他の家族型」が19.6％であったが、これらの妊娠経過をみると、つわりや後期妊娠中毒症など、精神的状態が関係するといわれる症状の発現率は、核家族以外のその他の群に、しかし、貧血などは核家族に高い傾向がみられた。

分娩等の経過では、前早期破水、微弱陣痛などは核家族に多い傾向があり、低体重児出生率はその他の群に多い傾向がみられた（表25）。

表25 家族型態別妊娠・分娩等の経過

(%)

	総 数	核 家 族	そ の 他
総 数	(983) 100.0	(790) 100.0	(193) 100.0
妊 娠 中			
つ わ り 強	8.0	6.6	14.0
後期妊娠中毒症	31.2	30.4	34.7
流・早産の徴候	29.4	29.6	28.5
貧 血	44.3	45.3	39.9
分 娩			
流 早 産	11.1	11.4	9.8
前・早期破水	15.1	16.1	11.5
微弱陣痛	9.8	11.0	5.2
児 低 体 重 児	7.8	7.1	10.7

(6) 妊娠前の生理休暇取得状況をみると、「休まなかった者」が最も多く、全体の64.6%、ついで「時々休んだ者」21.2%、「毎月休んだ者」14.2%であった。

この3群の妊娠・分娩等の経過をみると、「毎月休んだ者」に早産の割合が高く、また、後期妊娠中毒症の発症率の高い傾向がみられたほかは、顕著な傾向がみられなかった(表26)。

表26 生理休暇取得状況別妊娠・分娩等の経過

(%)

	総 数	休まなかった	時々休んだ	毎月休んだ
総 数	(983) 100.0	(635) 100.0	(208) 100.0	(140) 100.0
妊 娠 中				
後期妊娠中毒症	31.2	31.3	25.5	39.3
流・早産の徴候	29.4	28.8	28.8	32.9
分 娩				
流・早産	11.1	9.2	11.1	20.0
児 低 体 重 児	7.8	8.6	5.8	7.2
産 褥				
復古不全	4.7	4.8	4.3	5.0

6 国・地方公共団体に対する要望

勤労婦人が、その妊娠・出産・育児のさまざまな問題に関して、国や地方公共団体に対して、どのような施策を望んでいるかについてみると、「乳児保育施設の増設を望む者」が55.5%と最も多く、次いで「育児休業」の46.7%、「産後休業期間の延長」32.2%、「妊娠中の時差通勤」28.9%、「つわり休暇」27.6%などが多かった。

特に、乳児保育施設の増設の要望は、教員、看護婦、保母、理・美容師などの専門的・技術的職業従事者に強かった。

また、育児休業を要望する声もこれらの職種に強くみられた(表27)。

表27 国等に対する要望事項

(M・A) (%)

	総 数	妊時 娠差 中通 の勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	妊給 付金 増 の額	産期 前間 休延 業長	産期 後間 休延 業長	乳施 児設 保増 育設	保時 育所 の延 保長	そ の 他
総 数	100.0	28.9	27.6	46.7	14.6	13.4	32.2	55.5	25.4	15.5
一 般 事 務	100.0	32.5	32.8	40.9	17.0	15.3	30.4	46.7	17.5	1.7
店 員	100.0	23.5	27.5	21.6	19.6	15.7	35.3	41.2	25.5	—
工 員	100.0	20.8	23.6	38.9	23.6	12.5	30.6	29.2	15.3	—
教 員	100.0	21.7	18.7	80.7	4.8	5.4	30.1	88.6	44.0	4.2
看 護 婦 等	100.0	37.7	23.0	60.7	16.4	11.5	32.8	70.5	32.8	—
保 母	100.0	25.0	37.5	37.5	20.8	12.5	25.0	62.5	20.8	4.2
キーパンチャー・ タイピスト	100.0	43.6	30.8	46.2	7.7	15.4	33.3	56.4	20.5	—
電 話 交 換 手	100.0	32.1	21.4	21.4	16.1	26.8	53.6	57.1	37.5	—
理・美容師	100.0	—	22.2	22.2	—	11.1	11.1	66.7	22.2	—
そ の 他	100.0	24.1	26.4	42.5	12.6	11.5	34.5	50.6	27.6	—

Ⅲ 他の同種調査との比較

本調査と、表29の調査一覧に示した、家庭婦人や勤労婦人に関する同種の調査との比較を行った結果は、次のとおりである。

1. 勤労婦人と家庭婦人との比較

本調査の実施と同時期に国立習志野病院で出産した家庭婦人の妊娠・出産等の調査（鈴木三郎）と比較すると、

妊娠中の経過では、流産の徴候のあった者の割合が勤労婦人の29.4%に対して、家庭婦人では19.4%と低く、また、後期妊娠中毒症の割合も勤労婦人の31.2%に対し、家庭婦人は25.0%と低い傾向がみられた。

分娩の経過では、前早期破水、微弱陣痛、分娩遅延の症状が、勤労婦人の、それぞれ15.1%、9.8%、14.4%に対し、家庭婦人は5.6%、1.7%、8.9%と低かった。

また、低体重児出産の割合も、勤労婦人の7.8%に対し、家庭婦人は5.0%と低い傾向がみられた。

以上のように、勤労婦人は一般的にいて、家庭婦人に比べ、妊娠・分娩等の経過に異常の割合が高い傾向にあることが伺われる（表28）。

表28 勤労婦人と家庭婦人との妊娠・分娩等の経過の比較
(%)

		勤 労 婦 人 (本 調 査)	家 庭 婦 人 (鈴 木 調 査)
総 数		(9 8 3) 1 0 0 . 0	(1 8 0) 1 0 0 . 0
妊 娠 中	つ わ り 強	8.0	10.0
	後期妊娠中毒症	31.2	25.0
	流 早 産 の 徴 候	29.4	19.4
	貧 血	44.3	41.6
分 娩	流 産	0.6	1.1
	早 産	10.5	9.4
	前 早 期 破 水	15.1	5.6
	微 弱 陣 痛	9.8	1.7
	分 娩 遅 延	14.4	8.9
	異 常 出 血	9.4	3.3
	仮死産（蘇生）	3.4	2.8
児	低 体 重 児	7.8	5.0
産 褥	母 乳 分 泌 不 良	12.0	10.0
	復 古 不 全	4.7	5.0

2 症状別の勤労婦人に関する他調査との比較

(1) つわり強について

本調査での、つわり強は8.0%であったが、東大助産婦学校調査(8.3%)、豊島病院調査(9.3%)、森山調査(交通機関の混雑度により異なるが、平均28.4%)など、いずれも本調査より高くなっている。

(2) 後期妊娠中毒症について

本調査での、後期妊娠中毒症は31.2%であったが、他の調査では、明城調査(45.1%)、秋草調査(66.0%)、佐道調査(49.4%)、斐他調査(25.0%)と本調査を上廻るものが多い。

(3) 流早産の徴候について

本調査での流早産の徴候は29.4%であったが、豊島病院調査(33.3%)、東大助産婦学校調査(22.0%)などに比べ大きな違いはみられなかった。

(4) 貧血について

本調査での貧血は44.3%であるが、前回労働省調査(16.5%)、天羽他調査(11.5%)、本多他調査(24.2%)にくらべかなり高かった。

これは、貧血の診断基準が病院によって、やや違いのあることや、本調査では妊娠期間中1回でも貧血が出れば、貧血としていることにもよると考えられる。

(5) 流早死産について

本調査では「妊娠第4月以降の流産」は0.6%であったが、これは人口動態統計の1.6%(但し勤労婦人、家庭婦人を含む)、前回労働省調査の1.5%を下廻った。

早産の割合は10.5%であったが、前回労働省調査(9.4%)、本多他調査(10.2%)、斉藤調査(教員・助産婦等13.3%)とほぼ同じであった。

また、後期死産の割合は、本調査では0.6%と前回労働省調査(2.6%)、人口動態統計(1.3%)より低かった。

(6) 低体重児について

本調査では7.8%であったが、これは人口動態統計の6.1%にくらべ高い傾向がみられ、他の、中村調査(9.3%)、田中調査(9.2%)、高橋調査(11.1%)、篠崎調査(17.6%)、佐道調査(9.9%)にくらべ低かった。

表29 妊娠・出産に関する調査一覧

番号	調査者名	調査年	調査対象
1	労働省婦人少年局	昭和43	製造業(30人以上規模)事業所に勤務しながら出産した者808名
2	厚生省(人口動態統計)	47	戸籍法による出生・死亡、死産等各種届出の各年毎の全数
3	鈴木三郎	47.11~ 48.2	国立習志野病院での出産者(但し家庭婦人)180名
4	東京大学助産婦学校	44	東大病院等で出産した勤労婦人51名 家庭婦人88名
5	東京都立豊島病院	40	豊島病院の看護婦等38名
6	森山豊他	42	京浜地区の勤労婦人437名
7	明城春弥他	28~ 38	仙台鉄道病院で出産した有職・無職婦人各568名
8	秋草美俊他	34~ 35	山形東根赤十字病院で出産した有職・無職婦人各100名
9	佐道正彦	38~ 41	阪大病院で出産した有職934名 無職1307名
10	斐・中館他	43~ 44	東京杉並保健所乳児検診の母1089名
11	天羽寿美他	43	徳島県内居住有職・無職婦人1244名
12	斉藤一	35	家庭婦人1586名、有職婦人1545名
13	本多洋他	45	東京及び近郊住宅公園居住者3745名
14	中村利彦	30	沼津地区での出産者3742名
15	田中文子他	30~39	丹後機業地区婦人の児4624名
16	高橋正郎	30~32	高千穂保健所管内出生児4032名
17	篠崎吉次	32~35	桐生保健所管内出生児750名

調 査 病 院 名

病 院 名			
愛	育	病	院
大	森	赤	十 字 病 院
関	東	通	信 病 院
三	榮	病	院
中	央	鉄	道 病 院
東	芝	中	央 病 院
都	立	荒	川 産 院
都	立	築	地 産 院
都	立	豊	島 病 院
日	本	赤	十 字 社 産 院
日	本	大	学 附 属 病 院
武	蔵	野	赤 十 字 病 院
神奈川県立母子保健センター			
川	崎	市	立 病 院
社会保険横浜中央病院			
国	立	習	志 野 病 院
国	立	所	沢 病 院
丸	山	病	院
日	立	総	合 病 院
大	阪	通	信 病 院
聖	パ	ル	ナ バ 病 院
香	椎	病	院

Ⅳ 統 計 表

統 計 表

(各表とも実数・構成比)

第 1 表	職種別・勤続・非勤続別・年齢階級別出産者数	34
第 2 表	妊婦に対する業務軽減の状況(職種別)	36
第 3 表	妊娠中の休業状況(職種別)	38
第 4 表	年齢階級別・出産経験別妊娠・分娩・産褥経過	40
第 5 表	流産経験別・職種別妊娠・分娩・産褥経過	44
第 6 表	実労働時間別・残業有無別妊娠・分娩・産褥経過	48
第6表の2	勤務態様別・総拘束時間(労働時間+休憩時間+往復通勤時間) 別妊娠・分娩・産褥経過	52
第 7 表	作業姿勢別・作業環境別妊娠・分娩・産褥経過	56
第 8 表	作業性質別妊娠・分娩・産褥経過	60
第 9 表	妊娠のための業務軽減の有無別妊娠・分娩・産褥経過	62
第10表	産前休業日数別妊娠・分娩・産褥経過	64
第11表	通勤所要時間(片道)別・通勤時の苦痛の有無別妊娠・ 分娩・産褥経過	68
第12表	通勤方法・混雑の程度別妊娠・分娩・産褥経過	72
第13表	休養・睡眠・栄養の摂取状況別妊娠・分娩・産褥経過	76
第14表	家庭生活状況別妊娠・分娩・産褥経過	78
第15表	生理休暇取得状況別妊娠・分娩・産褥経過	80
第16表	国・地方公共団体に対する要望事項 ——継続勤務・出産退職者・職種・勤続年数別——	83

第1表 職種別・勤続・非勤続別・年齢階級別出産者数(実数)

	総 数	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35歳~
総 数	983	231	561	153	38
勤 続	610	125	343	114	28
退 職	373	106	218	39	10
一 般 事 務	418	110	236	59	13
勤 続	198	50	101	39	8
退 職	220	60	135	20	5
店 員	51	15	28	4	4
勤 続	25	5	17	1	2
退 職	26	10	11	3	2
工 員	72	25	35	10	2
勤 続	38	13	20	5	
退 職	34	12	15	5	2
教 員	166	18	103	38	7
勤 続	153	16	95	35	7
退 職	13	2	8	3	
保健助産看護婦	61	10	37	12	2
勤 続	50	8	29	11	2
退 職	11	2	8	1	
保 母	24	7	11	3	3
勤 続	20	7	8	3	2
退 職	4		3		1
キーバンチャー・タイピスト	39	13	24	2	
勤 続	23	8	13	2	
退 職	16	5	11		
電 話 交 換 手	56	14	30	10	2
勤 続	43	8	23	10	2
退 職	13	6	7		
理・美容師	9	2	6	1	
勤 続	3		2	1	
退 職	6	2	4		
そ の 他	87	17	51	14	5
勤 続	57	10	35	7	5
退 職	30	7	16	7	

第1表 職種別・勤続・非勤続別・年齢階級別出産者数(構成比%)

	総 数	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35歳~
総 数	1000 1000	235	571	156	38
勤 続	621 1000	205	562	187	46
退 職	379 1000	284	584	105	27
一 般 事 務	1000 1000	263	565	141	31
勤 続	474 1000	253	510	197	40
退 職	526 1000	273	614	91	23
店 員	1000 1000	294	549	78	28
勤 続	490 1000	200	680	40	80
退 職	510 1000	385	423	115	77
工 員	1000 1000	347	486	139	28
勤 続	528 1000	342	526	132	
退 職	472 1000	353	441	147	59
教 員	1000 1000	108	620	229	42
勤 続	922 1000	105	621	229	46
退 職	78 1000	154	615	231	
保健助産看護婦	1000 1000	164	607	197	33
勤 続	820 1000	160	580	220	40
退 職	180 1000	182	727	91	
保 母	1000 1000	292	458	125	125
勤 続	833 1000	350	400	150	100
退 職	167 1000		750		250
キーバンチャー・タイピスト	1000 1000	333	615	51	
勤 続	590 1000	348	565	87	
退 職	419 1000	313	687		
電 話 交 換 手	1000 1000	250	536	178	36
勤 続	768 1000	186	535	233	46
退 職	232 1000	462	538		
理・美容師	1000 1000	222	667	111	
勤 続	333 1000		667	333	
退 職	667 1000	333	667		
そ の 他	1000 1000	195	586	161	57
勤 続	655 1000	175	614	123	88
退 職	345 1000	233	533	233	

第2表 妊婦に対する業務軽減の状況(職種別)

(実数)

	総 数	一 般 事 務 員	店 員	工 員	教 員	保助看 健康護 婦	保 母	キ ー ボ ー ド 操 作 者	電 話 交 換 手	理 ・ 美 容 師	そ の 他
総 数	983	418	51	72	166	61	24	39	56	9	87
有	243	59	22	25	71	23	8	5	11		19
請求の上	124	20	10	11	38	9	7	5	8		16
事業所の命	119	39	12	14	33	14	1		3		3
労働時間短縮	119	32	6	3	46	5	4	4	9		10
業務負担の軽減	35	7	6	8	6	4	1		1		2
作業姿勢変更	11			6	2						3
時間短縮と負担軽減	60	18	3	5	15	13	3	1			2
その他	18	2	7	3	2	1			1		2
無	740	359	29	47	95	38	16	34	45	9	68
請求したが不変	20	8		3	2	2	1	3			1
請求しなかった	720	351	29	44	93	36	15	31	45	9	67
つらくなかった	477	272	15	26	36	23	8	22	35	6	34
仕事の都合	141	46	6	7	42	8	5	6	2		19
変えてもらえることを知らなかった	12	5		2	2				1		3
申し出ても駄目と思った	64	22	5	7	12	3	2	3	7	1	2
その他	28	6	3	2	2	2				2	9

第2表 妊婦に対する業務軽減の状況(職種別)

(構成比%)

	総 数	一 般 事 務 員	店 員	工 員	教 員	保助看 健康護 婦	保 母	キ ー ボ ー ド 操 作 者	電 話 交 換 手	理 ・ 美 容 師	そ の 他
総 数	(1000) 1000	(425) 1000	(52) 1000	(73) 1000	(169) 1000	(62) 1000	(24) 1000	(40) 1000	(57) 1000	(9) 1000	(89) 1000
有	24.7	14.1	4.31	3.47	4.28	3.77	3.33	12.8	1.96		21.8
請求の上	12.6	4.8	1.96	1.53	2.29	1.48	2.92	12.8	1.43		18.4
事業所の命	12.1	9.3	2.35	1.94	1.99	2.29	4.1		5.3		3.4
労働時間短縮	12.1	7.7	1.18	4.2	2.77	8.2	1.67	1.03	1.61		11.5
業務負担の軽減	3.6	1.7	1.18	1.11	3.6	6.6	4.1		1.8		2.3
作業姿勢変更	1.1			8.3	1.2						3.4
時間短縮と負担軽減	6.1	4.3	5.9	6.9	9.0	21.3	12.5	2.6			2.3
その他	1.8	0.5	1.37	4.2	1.2	1.6			1.8		2.3
無	75.3	85.9	5.69	6.53	5.72	6.23	6.67	87.2	8.04	10.00	78.2
請求したが不変	2.0	1.9		4.2	1.2	3.3	4.1	7.8			1.1
請求しなかった	73.3	84.0	5.69	6.11	5.60	5.90	6.25	7.95	8.04	10.00	77.0
つらくなかった	48.5	65.1	2.94	3.61	2.17	3.77	3.33	5.64	6.25	6.67	3.91
仕事の都合	14.4	11.0	1.18	9.7	25.3	13.1	20.8	1.54	3.6		21.8
変えてもらえることを知らなかった	1.2	1.2		3.4	5.6				1.8		3.4
申し出ても駄目と思った	6.5	5.3	9.8	9.7	7.2	4.9	8.3	7.7	12.5	11.1	2.3
その他	2.7	1.4	5.9	2.8	1.2	3.3				22.2	1.03

第3表 妊娠中の休業状況（職種別）

（実数）

		総 数	一 般 事 務 員	店 員	工 員	教 員	保助看 健産護 婦	保 母	キ ー バ ン チ ャ ー ！ タイ ビ ス ト	電 話 交 換 手	理 ・ 美 容 師	そ の 他
総	数	983	418	51	72	166	61	24	39	56	9	87
妊 娠 中 の 休 業 状 況 （ 産 前 休 業 を 除 く ） 妊 娠 に 関 係 あ る 事 由 に よ る 休 業	な し	196	67	16	11	47	8	2	6	12	5	22
	あ り	787	351	35	61	119	53	22	33	44	4	65
	1～10日	406	168	18	29	76	30	10	20	22	1	32
	11～20日	180	86	8	12	19	8	9	7	11	2	18
	21日以上	188	94	9	19	21	14	3	5	7	1	15
	不 明	13	3		1	3	1		1	4		
産 前 休 業 日 数	な し	390	225	29	28	18	11	4	14	17	9	35
	退 職 の 為	290	182	19	20	6	9	4	10	13	6	21
	と れ な か つ た	12	5	4	1	2						
	体 調 良	55	20	5	4	4			3	4	3	12
	流・早産の為	21	10		1	5	2		1			2
	不 明	12	8	1	2	1						
	あ り	593	193	22	44	148	50	20	25	39		52
	1～20日	51	27	5	5	2	4	1	1	3		3
	21～35日	126	48	2	12	25	12	2	8	6		11
	36～41日	86	32	1	4	13	8	5	3	10		10
42日～	330	86	14	23	108	26	12	13	20		28	

第3表 妊娠中の休業状況（職種別）

（構成比）

		総 数	一 般 事 務	店 員	工 員	教 員	保助看 健産護 婦	保 母	キ ー バ ン チ ャ ー ！	電 話 交 換 手	理 ・ 美 容 師	そ の 他	
総		数	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	
妊 娠 に 関 係 あ る 事 由 に よ る 休 業 （ 産 前 休 業 を 除 く ）	な	し	199	160	314	153	283	131	83	154	214	556	253
	あ	り	801	840	686	847	717	869	917	846	786	444	747
	1～10日		413	402	353	403	458	492	417	513	393	111	368
	11～20日		183	206	157	167	114	131	376	179	196	222	207
	21日以上		191	225	176	264	127	230	125	128	125	111	172
	不 明		13	07		14	18	16		26	71		
産 前 休 業 日 数	な	し	397	538	569	389	108	180	167	359	304	1000	402
	退 職 の 為		295	435	373	278	36	148	167	256	232	667	241
	と れ な か つ た		12	12	78	14	12						
	体 調 良		56	48	98	56	24			77	71	333	138
	流・早産の為		21	24		14	30	33		26			23
	不 明		12	19	20	28	06						
	あ	り	603	462	431	611	892	820	833	641	696		598
	1～20日		52	65	98	69	12	66	42	26	54		34
	21～35日		128	115	39	167	151	197	83	205	107		126
	36～41日		87	76	20	56	78	131	208	77	179		115
42日～		336	206	275	319	650	426	500	333	357		322	

第4表 年齢階級別・出産経験別妊娠・分娩・産褥経過

(実数)

	総数	20～24才		20～24才	20～24才	20～24才
		初産	経産	初産	経産	初産
総数	983	777	206	231	221	10
妊娠の異常があった者	713	566	147	159	150	9
(異常の内容)						
つわり強	79	63	16	22	21	1
後期妊娠中毒症	307	251	56	62	61	1
高血圧	33	26	7	7	6	1
蛋白尿	39	32	7	8	8	
浮腫	126	95	31	22	22	
上記症状以上合併症	109	98	11	25	25	
流・早産の後	289	225	64	68	60	8
貧血	435	342	93	98	93	5
分娩の異常があった者	540	452	88	129	125	4
(異常の内容)						
分娩の時期						
流産	6	3	3	3	2	1
早期産	103	77	26	24	21	3
晚期産	55	44	11	12	12	
分娩様式の異常	64	52	12	9	8	1
分娩時の異常	380	331	49	86	84	2
前・早期破水	148	132	16	37	35	2
微弱陣痛	96	90	6	16	16	
双胎	10	8	2	2	2	
切迫仮死等	91	78	13	26	26	
胎児の状態異常	18	16	2	3	3	
前置胎盤等	49	40	9	12	12	
頸管等裂傷	130	112	18	28	26	2
その他						
遅延分娩	141	135	6	42	40	2
異常出血	92	73	19	15	13	2
児の状態						
仮死産(蘇生)	33	32	1	6	6	
死産	6	6		3	3	
早期新生児死亡	②	①	①	①	①	
児の体重(分娩時)						
2,500g以下	77	69	8	17	17	
2,501～2,999g	250	208	42	55	52	3
3,000～3,499g	473	381	92	115	113	2
3,500～3,999g	161	107	54	35	32	3
4,000g以上	22	13	9	5	4	1
無回答	4	4		3	3	
産状						
母乳分泌不良	117	108	9	32	31	1
褥瘡	46	35	11	9	8	1

注) 分娩時の児の体重が2,501～3,999gの場合は分娩の異常ではない。

	25～29才		30～34才		35才以上	
	初産	経産	初産	経産	初産	経産
561	460	101	153	81	72	38
415	349	66	109	55	54	30
40	34	6	11	4	7	6
180	158	22	48	26	22	17
20	18	2	5	2	3	1
25	20	5	6	4	2	
73	63	10	19	6	13	12
62	57	5	18	14	4	4
157	134	23	47	25	22	17
255	211	44	67	33	34	15
310	258	52	80	55	25	21
2		2	1	1		
56	44	12	15	10	5	8
27	19	8	15	13	2	1
32	26	6	18	16	2	5
215	191	24	60	42	18	19
87	80	7	19	14	5	5
60	57	3	13	11	2	7
7	6	1	1		1	
50	44	6	9	6	3	6
10	10		4	2	2	1
28	21	7	7	5	2	2
74	67	7	24	16	8	4
83	80	3	14	13	1	2
49	41	8	21	13	8	7
23	22	1	4	4		
2	2		1	1		
①		①				
51	46	5	5	2	3	4
167	141	26	19	11	8	9
266	222	44	76	41	35	16
77	55	22	40	18	22	9
5	2	3	12	7	5	2
			1	1		
61	57	4	17	13	4	7
29	23	6	8	4	4	

第4表 年齢階級別・出産経験別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数			20～24才		
	初産	経産		初産	経産	
総 数	(1000) 1000	(790) 1000	(210) 1000	(235) 1000	(225) 1000	(10) 1000
妊娠の異常があった者	725	728	714	688	679	900
(異常の内容)						
つわり強	80	81	78	95	95	100
後期妊娠中毒症	312	323	272	268	276	100
高血圧	34	33	34	30	27	100
蛋白尿	40	41	34	35	36	
浮腫	128	122	150	95	100	
上記症状以上合併症	111	126	53	108	113	
流・早産の徴候	294	290	311	294	271	800
貧血	443	440	451	424	421	500
分娩の異常があった者	549	582	427	558	561	400
(異常の内容)						
分娩の時期						
流産	06	04	15	13	09	100
早期産	105	99	126	104	95	300
晚期産	56	57	53	52	54	
分娩様式の異常	66	67	59	39	37	111
分娩時の異常	389	428	241	377	384	222
前・早期破水	151	171	79	162	160	222
微弱陣痛	98	116	30	70	73	
双胎	10	10	10	09	09	
切迫仮死等	93	101	64	114	119	
胎児の状態異常						
前置胎盤等	18	21	10	13	14	
頸管等裂傷	50	52	44	53	55	
その他	133	145	89	123	119	222
その他						
遷延分娩	144	174	30	184	183	222
異常出血	94	94	94	66	59	222
児の状態						
仮死産(蘇生)	34	41	05	26	27	
死産	06	08		13	14	
早期新生児死亡	(02)	(01)	(05)	(04)	(05)	
児の体重(分娩時)						
2,500g以下	78	88	39	74	77	
2,501~2,999g	253	266	205	239	235	333
3,000~3,499g	479	487	449	500	511	222
3,500~3,999g	163	137	263	152	145	333
4,000g以上	22	17	44	22	18	111
無回答	04	05		13	14	
産状						
母乳分泌不良	120	140	44	140	142	111
褥復						
復古不全	47	45	54	39	37	111

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(構成比%)

	25～29才			30～34才			35才以上		
	初産	経産		初産	経産		初産	経産	
(571) 1000	(468) 1000	(103) 1000	(156) 1000	(82) 1000	(73) 1000	(39) 1000	(15) 1000	(23) 1000	
740	759	653	712	679	750	789	800	783	
71	74	59	72	49	97	158	267	87	
321	343	218	314	321	306	447	400	478	
36	39	20	33	25	42	26		43	
45	43	50	39	49	28				
130	137	99	124	74	181	316	267	348	
110	124	50	118	173	56	105	133	87	
280	291	228	307	309	306	447	400	478	
455	459	436	438	407	472	395	333	435	
553	561	515	523	679	347	553	933	304	
04		20	07	12					
100	96	119	98	123	69	211	133	261	
48	41	79	98	160	28	26		43	
57	57	61	118	200	28	132	133	130	
383	415	242	395	525	250	500	933	217	
155	174	71	125	175	69	132	200	87	
107	124	30	86	138	28	184	400	43	
12	13	10	07		14				
89	96	61	59	75	42	158	133	174	
18	22		26	25	28	26	67		
50	46	71	46	63	28	53	133		
132	146	71	158	200	111	105	200	43	
148	174	30	92	163	14	53	133		
87	89	81	138	163	111	184	400	43	
41	48	10	26	50					
04	04		07	13					
(02)		(01)							
90	99	50	33	25	41	105	267		
295	303	260	124	138	110	237	267	217	
470	476	440	497	513	479	421	333	478	
136	118	220	261	225	301	237	133	304	
09	04	30	78	88	68				
			07	13					
109	124	40	112	163	56	184	467		
52	50	61	53	50	55				

第5表 流産経験別・職種別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数			一 般 事 務	店 員
		流産 経験 あり	流産 経験 なし		
総 数	983	108	875	418	51
妊娠の異常があった者	713	76	637	315	37
(異常の内容)					
つわり強	79	18	61	31	6
後期妊娠中毒症	307	36	271	163	20
高血圧	33	1	32	17	1
蛋白尿	30	5	34	18	2
浮腫	126	16	110	70	12
上記症状二以上合併症	109	14	95	58	5
流・早産の徴候	289	51	238	116	17
貧血	435	44	391	194	21
分娩の異常があった者	540	62	478	217	31
(異常の内容)					
分娩の時期					
流産	6	1	5	2	
早産	103	16	87	43	5
晩期産	55	10	45	28	1
分娩様式の異常	64	10	54	33	2
分娩時の異常	380	39	341	179	18
前・早期破水	148	11	137	73	8
微弱陣痛	96	8	88	45	7
双胎	10		10	5	
切迫仮死等	91	7	84	44	3
胎児の状態異常	18	3	15	9	
前置胎盤等	49	4	45	16	1
頸管等裂傷	130	13	117	69	5
その他					
遷延分娩	141	16	125	61	7
異常出血	92	10	82	39	4
児の状態					
仮死産(蘇生)	33	4	29	19	
死産	6		6	3	
早期新生児死亡	②		②		②
児の体重(分娩時)					
2,500g以下	77	7	70	30	8
2,501~2,999g	250	24	226	107	25
3,000~3,499g	473	54	419	211	15
3,500~3,999g	161	21	140	65	2
4,000g以上	22	1	21	6	
無回答	4		4	2	1
産状					
母乳分泌不良	117	20	97	51	6
褥況復古不全	46	5	41	23	1

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実 数)

工 員	教 員	保助看護 建産護 一 婦	保 母	タイピスト キヤンチャ	電話交換手	理・美容師	そ の 他
72	166	61	24	39	56	9	87
56	103	44	17	29	46	8	58
6	10	5	4		12	1	4
27	28	12	5	12	15	4	21
3	1	2	2	2	1	1	3
2	5	4		2	5		1
13	11		2	5	4	1	8
9	11	6	1	3	5	2	9
18	45	22	10	8	15	6	32
34	69	27	12	17	31	5	25
37	77	42	14	27	40	5	49
1	2		1				
6	11	8	3	4	13	1	9
2	8	4	3	1	3		5
	10	5		3	4		7
22	42	28	6	21	29	6	29
8	9	14	1	8	10	2	15
7	12	7	4	6	6		2
2				1	1		2
1	13	5	1	3	13	1	7
	1	3		1	1	2	1
2	4	3		5	15		3
5	17	8	2	6	8	1	9
11	21	11	2	5	12		11
5	17	8	4	2	5		8
3	5		1	1		1	3
			1	1			1
6	8	7	4	2	2	2	8
16	38	16	6	9	10	4	19
33	87	26	9	21	29	3	39
17	28	11	3	7	12		16
1	3	1	1		4		6
							1
11	12	8	6	4	7	2	10
5	4	2	2	3	1	1	4

第5表 流産経験別・職種別妊娠・分娩・産褥経過

	数			一般事務	店員
	総数	流産経験あり	流産経験なし		
総数	(1000) 1000	(890) 1000	(110) 1000	(425) 1000	(52) 1000
妊娠の異常があった者	725	704	728	754	725
（異常の内容）					
つわり強	80	167	70	74	118
後期妊娠中毒症	312	333	310	390	392
高血圧	34	09	37	41	20
蛋白尿	40	46	39	43	39
浮腫	128	148	126	167	235
上記症状以上合併症	111	130	109	139	98
流・早産の徴候	294	472	272	278	333
貧血	44.3	40.7	44.7	46.4	41.2
分娩の異常があった者	54.9	57.4	54.6	61.9	60.8
（異常の内容）					
分娩の時期					
流産	0.6	0.9	0.6	0.5	
早産	10.5	14.8	9.9	10.3	9.8
晩期産	5.6	9.3	5.1	6.7	2.0
分娩様式の異常	6.6	9.3	6.2	7.9	3.9
分娩時の異常	38.9	36.4	39.2	43.0	35.3
前・早期破水	15.1	10.3	15.7	17.5	15.7
微弱陣痛	9.8	7.5	10.1	10.8	13.7
双胎	1.0		1.1	1.2	
切迫仮死等	9.3	6.5	9.7	10.6	5.9
胎児の状態異常等	1.8	2.8	1.7	2.2	
前置胎盤等	5.0	3.7	5.1	3.8	2.0
頸管等裂傷	13.3	12.1	13.4	16.6	9.8
その他					
遷延分娩	14.4	15.0	14.4	14.7	13.7
異常出血	9.4	9.3	9.4	9.4	7.8
児の死産（蘇生）	3.4	3.7	3.3	4.6	
死産	0.6		0.7	0.7	
早期新生児死亡	(0.2)		(0.2)		(3.9)
児の体重（分娩時）					
2,500g以下	7.8	6.5	8.0	7.1	15.7
2,501~2,999g	25.3	22.4	25.7	25.4	49.0
3,000~3,499g	47.9	50.5	47.6	50.1	29.4
3,500~3,999g	16.3	19.6	15.9	15.4	3.9
4,000g以上	2.2	0.9	2.4	1.4	
無回答	0.4		0.5	0.5	2.0
産後母乳分泌不良	12.0	18.7	11.1	12.3	11.8
産後復古不全	4.7	4.7	4.7	5.5	2.0

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

-46-

(構成比%)

工 員	教 員	保助看 健産護 婦	保 母	キー パン チャ ー タイ ピ ス ト	電 話 交 換 手	理・美 容 師	そ の 他
(73) 1000	(169) 1000	(62) 1000	(24) 1000	(40) 1000	(57) 1000	(09) 1000	(89) 1000
728	620	721	708	744	821	889	667
83	60	82	167		214	111	46
375	169	197	208	308	268	444	241
42	06	33	83	51	18	111	34
28	30	66		51	89		11
181	66		83	128	71	111	92
125	66	98	42	77	89	222	103
250	271	361	417	205	268	667	368
472	416	443	500	436	554	556	287
514	464	689	583	692	714	667	563
14	12		42				
83	66	131	125	103	232	111	103
28	48	66	125	26	54		57
	61	82		77	71		80
310	256	459	261	538	518	667	333
113	55	230	43	205	179	222	172
99	73	115	174	154	107		23
28					18		23
14	79	82	43	77	232	111	80
	06	49		26	18	222	11
28	24	49		128	268		34
70	104	131	87	154	143	111	103
155	128	180	87	128	214		126
70	104	131	174	51	89		92
42	30		43	26		111	34
			43	26			11
82	49	115	174	51	35	222	90
219	232	262	261	231	175	444	213
452	530	426	391	538	509	333	438
233	171	180	130	179	211		180
14	18	15	43		70		67
							11
155	73	131	261	103	125	222	115
70	24	33	87	77	18	111	46

第6表 実労働時間別・残業有無別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	残 業 時 間			7 時 間 未 満	残 業 時	
		な し	月 間 10 時間 未 満	月 間 10 時間 以 上		な し	月 間 10 時間 未 満
総 数	983	686	150	136	127	110	7
妊娠の異常があった者	713	502	108	93	89	77	5
(異常の内容)							
つわり強	79	55	11	10	11	10	
後期妊娠中毒症	307	210	49	42	37	32	3
高血圧	33	25	3	5	1	1	
蛋白尿	39	29	5	4	8	5	3
浮腫	126	85	21	18	16	14	
上記症状 二以上合併症	109	71	20	15	12	12	
流・早産の徴候	289	202	49	35	37	33	2
貧血	435	318	62	50	49	43	1
分娩の異常があった者	540	353	100	80	74	64	4
(異常の内容)							
分娩時期							
流産	6	4	2				
早産	103	75	15	11	21	19	
晩期産	55	41	6	8	6	6	
分娩様式の異常	64	42	11	10	9	8	1
分娩時の異常	380	263	61	52	54	49	3
前・早期破水	148	101	21	22	25	23	1
微弱陣痛	96	63	20	13	11	10	1
双胎	10	6	3	1	1	1	
切迫仮死等 胎児の状態異常	91	65	12	13	12	10	1
前置胎盤等	18	7	7	3	1	1	
頭管等裂傷	49	41	5	3	7	7	
その他	130	88	15	25	18	16	
その他							
遅延分娩	141	100	21	20	13	12	1
異常出血	92	57	21	12	5	4	1
児の状態							
仮死産(蘇生)	33	20	6	6	4	3	
死産	6	4	1	1			
早期新生児死亡	②	①					
児の体重(分娩時)							
2,500g以下	77	53	10	14	7	6	
2,501~2,999g	250	172	48	29	30	23	3
3,000~3,499g	473	323	74	68	65	59	2
3,500~3,999g	161	120	16	24	20	17	2
4,000g以上	22	17	2	2	3	3	
無回答	4	3	1		3	3	
産状							
母乳分泌不良	117	80	19	18	13	11	1
褥瘡復古不全	46	32	8	5	5	5	

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実 数)

間 月 間 10 時間 以 上	7 時 間 以 上	残 業 時 間			8 時 間 以 上	残 業 時 間			不 明
		な し	月 間 10 時間 未 満	月 間 10 時間 以 上		な し	月 間 10 時間 未 満	月 間 10 時間 以 上	
10	369	248	66	55	476	328	77	71	11
7	267	183	50	34	347	242	53	52	10
1	29	22	5	2	36	23	6	7	3
2	111	76	21	14	153	102	25	26	6
	15	13	1	1	17	11	2	4	
	11	10		1	19	14	2	3	1
2	42	31	9	2	66	40	12	14	2
	43	22	11	10	51	37	9	5	3
2	103	74	17	12	146	95	30	21	3
5	161	115	31	15	220	160	30	30	5
6	197	123	44	30	262	166	52	44	7
2					6	4	2		
	33	23	6	4	47	33	9	5	2
	24	17	3	4	25	18	3	4	
	28	18	6	4	26	16	4	6	1
2	138	93	28	17	184	121	30	33	4
1	50	31	9	10	69	47	11	11	4
	39	25	10	4	46	28	9	9	
	2	1	1		7	4	2	1	
1	32	21	8	3	46	34	3	9	1
	7	2	4	1	9	4	3	2	1
	16	14	2		26	20	3	3	
2	47	30	11	6	63	42	4	17	2
	60	39	12	9	68	49	8	11	
	38	27	8	3	47	26	12	9	2
1	13	8	3	2	15	9	3	3	1
	3	3			3	1	1	1	
					①	①			①
1	27	17	5	5	43	30	5	8	
4	107	71	23	13	112	78	22	12	1
4	169	111	29	29	231	153	43	35	8
1	60	44	9	7	80	59	5	16	1
	7	6		1	11	8	2	1	1
	1		1						
1	47	34	6	7	57	35	12	10	
	18	14	2	2	22	13	6	3	1

第6表 実労働時間別・残業有無別妊娠・分娩・産褥経過

		総 数	残 業 時 間			7 時 間 未 満	残 業 時	
			な し	月 間 10時間 未 満	月 間 10時間 以 上		な し	月 間 10時間 未 満
総 数		(1000) 1000	(698) 1000	(153) 1000	(139) 1000	(129) 1000	(112) 1000	(07) 1000
妊娠の異常があった者		725	732	720	684	701	700	714
(異常の内容)	つ っ わ り 強	80	80	73	74	87	91	
	後期妊娠中毒症	312	306	327	309	291	291	429
	高 血 圧	34	36	20	37	08	09	
	蛋 白 尿	40	42	33	29	63	45	42.9
	浮 腫	128	124	140	132	126	127	
	上記症状 一以上合併症	11.1	10.3	13.3	11.0	9.4	10.9	
	流・早産の徴候	294	294	327	257	291	300	286
	貧 血	443	464	413	368	386	391	14.3
	分娩の異常があった者	54.9	51.5	66.7	58.8	58.3	58.2	57.1
	異 常 の 内 容	分娩の時期						
流 産		0.6	0.6	1.3				
早 産		10.5	10.9	10.0	8.1	16.5	17.3	
晩 期 産		5.6	6.0	4.0	5.9	4.7	5.5	
分娩様式の異常		6.6	6.2	7.4	7.4	7.1	7.3	14.3
分娩時の異常		38.9	38.6	41.2	38.2	42.5	44.5	42.9
前・早期破水		15.1	14.8	14.2	16.2	19.7	20.9	14.3
微弱陣痛		9.8	9.2	13.5	9.6	8.7	9.1	14.3
双胎		1.0	0.9	2.0	0.7	0.8	0.9	
切迫仮死等		9.3	9.5	8.1	9.6	9.4	9.1	14.3
胎児の状態異常		1.8	1.0	4.7	2.2	0.8	0.9	
前置胎盤等		5.0	6.0	3.4	2.2	5.5	6.4	
頸管等裂傷		13.3	12.9	10.1	18.4	14.2	14.5	
その他								
遅延分娩		14.4	14.7	14.2	14.7	10.2	10.9	14.3
異常出血		9.4	8.4	14.2	8.8	3.9	3.6	14.3
児の状況								
仮死産(蘇生)		3.4	2.9	4.1	4.4	3.1	2.7	
死 産		0.6	0.6	0.7	0.7			
早期新生児死亡		(0.2)	0.1					
児の体重 (分娩時)	2,500g以下	7.8	7.7	6.6	10.2	5.5	5.4	
	2,501~2,999g	25.3	25.0	31.8	21.2	23.4	20.7	42.9
	3,000~3,499g	47.9	46.9	49.0	49.6	50.8	53.2	28.6
	3,500~3,999g	16.3	17.4	10.6	17.5	15.6	15.3	28.6
	4,000g以上	2.2	2.5	1.3	1.5	2.3	2.7	
	無 回 答	0.4	0.4	0.7		2.3	2.7	
産状	母乳分泌不良	12.0	11.7	12.8	13.2	10.2	10.0	14.3
癒況	復古不全	4.7	4.7	5.4	3.7	3.9	4.5	

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(構成比%)

間 月 間 10時間 以上	7 時 間 未 満	残 業 時 間			8 時 間 未 満	残 業 時 間			不 明
		な し	月 間 10時間 未 満	月 間 10時間 以 上		な し	月 間 10時間 未 満	月 間 10時間 以 上	
(10) 1000	(375) 1000	(252) 1000	(67) 1000	(56) 1000	(484) 1000	(334) 1000	(78) 1000	(72) 1000	(11)
700	724	738	758	618	729	738	688	732	
100	79	89	76	36	76	70	78	99	
200	301	306	318	255	321	311	325	366	
200	4.1	5.2	1.5	1.8	3.6	3.4	2.6	5.6	
	30	40		1.8	4.0	4.3	2.6	4.2	
	11.4	12.5	13.6	3.6	13.9	12.2	15.6	19.7	
	11.7	8.9	16.7	18.2	10.7	11.3	11.7	7.0	
200	27.9	29.8	25.8	21.8	30.7	29.0	39.0	29.6	
500	43.6	46.4	47.0	27.3	46.2	48.8	39.0	42.3	
600	53.4	49.6	66.7	54.5	55.0	50.6	67.5	62.0	
200					1.3	1.2	2.6		
	8.9	9.3	9.1	7.3	9.9	10.1	11.7	7.0	
	6.5	6.9	4.5	7.3	5.3	5.5	3.9	5.6	
	7.5	7.3	9.1	7.3	5.5	4.9	5.3	8.5	
200	37.4	37.5	42.4	30.9	39.1	37.3	40.0	46.5	
100	13.6	12.5	13.6	18.2	14.7	14.5	14.7	15.5	
	10.6	10.1	15.2	7.3	9.8	8.6	12.0	12.7	
	0.5	0.4	1.5		1.5	1.2	2.7	1.4	
100	8.7	8.5	12.1	5.5	9.8	10.5	4.0	12.7	
	1.9	0.8	6.1	1.8	1.9	1.2	4.0	2.8	
	4.3	5.6	3.0		5.5	6.2	4.0	4.2	
200	12.7	12.1	16.7	10.9	13.4	13.0	5.3	23.9	
	16.3	15.7	18.2	16.4	14.5	15.1	10.7	15.5	
	10.3	10.9	12.1	5.5	10.0	8.0	16.0	12.7	
100	3.5	3.2	4.5	3.6	3.2	2.8	4.0	4.2	
	0.8	1.2			0.6	0.3	1.3	1.4	
					0.2	0.3			
100	7.3	6.8	7.5	9.1	9.0	9.1	6.5	11.1	
400	28.8	28.5	34.3	23.6	23.5	23.8	28.6	16.7	
400	45.6	44.6	43.3	52.7	48.4	46.6	55.8	48.6	
100	16.2	17.7	13.4	12.7	16.8	18.0	6.5	22.2	
	1.9	2.4		1.8	2.3	2.4	2.6	1.4	
	0.3		1.5						
100	12.7	13.7	9.1	12.7	12.1	10.8	16.0	14.1	
	4.9	5.6	3.0	3.6	4.7	4.0	8.0	4.2	

第6表の2 勤務態様別・総拘束時間（労働時間＋休憩時間＋往復通勤時間）

	総 数	8 時 間 未 満	8 時 間 未 満	95 超 時 間 未 満	11 超 時 間 未 満	不 明	昼 勤 の み	8 時 間 未 満
総数	983	68	339	419	127	30	923	66
妊娠の異常があった者	713	50	243	312	88	20	666	48
（異常の内容）								
つわり強	79	4	25	35	10	5	75	4
後期妊娠中毒症	307	18	105	133	38	13	286	17
高血圧	33	2	11	12	7	1	33	2
蛋白尿	39	3	18	13	4	1	36	3
浮腫	126	9	44	57	11	5	119	8
上記2以上合併症	109	4	32	51	16	6	98	4
流・早産の徴候	289	29	98	119	34	9	269	28
貧血	435	21	143	202	55	14	408	21
分娩の異常があった者	540	38	169	242	74	17	495	37
（異常の内容）								
分娩の時期								
流産	6		1	4	1		6	
早期産	103	13	32	41	13	4	93	13
晚期産	55	3	13	30	7	2	52	3
分娩様式の異常	64	2	27	28	5	2	60	2
分娩時の異常	380	29	123	158	57	13	353	28
前・早期破水	148	13	42	68	18	7	135	13
微弱陣痛	96	8	23	46	17	2	87	8
双胎	10		2	6	2		9	
切迫仮死等	91	4	28	42	14	3	85	3
胎児の状態異常	18		3	13	1	1	15	
前置胎盤等	49	2	10	21	16		45	2
頸管等裂傷	130	10	38	63	13	6	121	10
その他								
遅延分娩	141	8	45	62	24	2	130	8
異常出血	92	4	25	46	15	2	86	4
児の状態								
仮死産（蘇生）	33	2	11	15	4	1	32	2
死産	6		2	2	2		5	
早期新生児死亡	②				①	①	②	
児の体重（分娩時）								
2,500g以下	77	7	23	34	13		69	7
2,501～2,999g	250	19	97	103	27	4	235	19
3,000～3,499g	473	25	171	193	64	20	445	24
3,500～3,999g	161	15	41	81	21	3	151	14
4,000g以上	22	1	7	10	2	2	22	1
無回答	4	1	1		1	1	4	1
産状								
母乳分泌不良	117	7	41	49	20		111	7
褥瘡復古不全	46	4	16	17	7	2	43	3

注）分娩時の児の体重が2,501～3,999gの場合は分娩の異常ではない。

別妊娠・分娩・産褥経過

（実数）

8 時 間 未 満	95 超 時 間 未 満	11 超 時 間 未 満	不 明	深 夜 勤 務 有 り 交 替	8 時 間 未 満	8 時 間 未 満	95 超 時 間 未 満	11 超 時 間 未 満
328	382	117	30	60	2	11	37	10
234	285	79	20	47	2	9	27	9
25	31	10	5	4			4	
100	122	34	13	21	1	5	11	4
11	12	7	1					
16	12	4	1	3		2	1	
43	53	10	5	7	1	1	4	1
30	45	13	6	11		2	6	3
95	106	31	9	20	1	3	13	3
138	187	48	14	27		5	15	7
161	214	66	17	45	1	8	28	8
1	4	1						
30	34	12	4	10		2	7	1
13	29	5	2	3			1	2
26	26	4	2	4		1	2	1
119	141	52	13	27	1	4	17	5
40	60	15	7	13		2	8	3
21	40	16	2	9		2	6	1
2	6	1		1				1
28	38	13	3	6	1		4	1
3	10	1	1	3			3	
10	19	14		4			2	2
36	57	12	6	9		2	6	1
42	56	22	2	11		3	6	2
23	42	15	2	6		2	4	
11	14	4	1	1			1	
2	2	1		1				1
		①	①					
21	31	10		8		2	3	3
94	93	25	4	15		3	10	2
168	173	60	20	28	1	3	20	4
38	77	19	3	10	1	3	4	2
7	10	2	2					
1		1	1					
40	46	18		6		1	3	2
15	16	7	2	3	1	1	1	

第6表の2 勤務態様別・総拘束時間（労働時間＋休憩時間＋往復通勤時間）

	総 数	8 時 間 未 満	8 時 間 未 満	95 時 間 未 満	11 時 間 未 満	不 明	昼 勤 の み	8 時 間 未 満
総 数	(1000) 1000	(69) 1000	(345) 1000	(426) 1000	(129) 1000	(31) 1000	(939) 1000	(67) 1000
妊娠の異常があった者	725	735	717	745	693	667	722	727
（異常の内容）								
つわり強	80	59	74	84	79	167	81	61
後期妊娠中毒症	312	265	310	317	299	433	310	258
高血圧	34	29	32	29	55	33	36	30
蛋白尿	40	44	53	31	31	33	39	45
浮腫	128	132	130	136	87	167	129	121
上記症状 二以上合併症	111	59	94	122	126	200	106	61
流・早産の徴候	294	426	289	284	268	300	291	424
貧血	443	309	422	482	433	467	442	318
分娩の異常があった者	549	559	499	578	583	567	536	561
（異常の内容）								
分娩の時期								
流産	06		03	10	08		07	
早産	105	191	94	98	102	133	101	197
晩期産	56	44	38	72	55	67	56	45
分娩様式の異常	66	29	80	67	40	67	65	30
分娩時の異常	389	426	364	381	452	433	385	424
前・早期破水	151	191	124	164	143	233	147	197
微弱陣痛	98	118	68	111	135	67	95	121
双胎	10		06	14	16		10	
切迫仮死等 胎児の状態異常	93	59	83	101	111	100	93	45
前置胎盤等	18		09	31	08	33	16	
頸管等裂傷	50	29	30	51	127		49	30
その他	133	147	112	152	103	133	132	152
その他								
遷延分娩	144	118	133	149	190	67	142	121
異常出血	94	59	74	111	119	67	94	60
児の状態								
仮死産（蘇生）	34	29	33	35	32	33	35	30
死産	06		06	05	16		05	
早期新生児死亡	(02)				(08)	(33)	(02)	
児の体重（分娩時）								
2,500g以下	78	103	68	81	102		75	106
2,501～2,999g	253	279	285	245	211	133	254	288
3,000～3,499g	479	368	503	458	500	667	481	364
3,500～3,999g	163	221	121	192	164	100	163	212
4,000g以上	22	15	21	24	16	67	24	15
無回答	04	15	03		08	33	04	15
産状								
母乳分泌不良	120	103	121	118	159		121	106
復古不全	47	59	47	41	56	67	47	45

注) 分娩時の児の体重が2,501～3,999gの場合は分娩の異常ではない。

別妊娠・分娩・産褥経過

(構成比%)

8 時 間 未 満	95 時 間 未 満	11 時 間 未 満	不 明	深 夜 勤 務 交 替	8 時 間 未 満	8 時 間 未 満	95 時 間 未 満	11 時 間 未 満
(334) 1000	(389) 1000	(119) 1000	(31) 1000	(61) 1000	(02) 1000	(11) 1000	(38) 1000	(10) 1000
71.3	74.6	67.5	66.7	78.3	100.0	81.8	73.0	90.0
76	81	85	16.7	6.7			108	
30.5	31.9	29.1	43.3	35.0	50.0	45.5	29.7	40.0
34	31	6.0	3.3					
4.9	3.1	3.4	3.3	5.0		18.2	2.7	
13.1	13.9	8.5	16.7	11.7	50.0	9.1	10.8	10.0
9.1	11.8	11.2	20.0	18.3		18.2	16.2	30.0
29.0	27.7	26.5	30.0	33.3	50.0	27.3	35.1	30.0
42.1	49.0	41.0	46.7	45.0		45.5	40.5	70.0
49.1	56.0	56.4	56.7	75.0	50.0	72.7	75.7	80.0
0.3	1.0	0.9						
9.1	8.9	10.3	13.3	16.7		18.2	18.9	10.0
4.0	2.6	4.3	6.7	5.0			2.7	20.0
8.0	6.9	3.4	6.7	6.7		9.1	5.4	10.0
36.4	37.3	44.8	43.3	45.0	50.0	36.4	45.9	50.0
12.2	15.9	12.9	23.3	21.7		18.2	21.6	30.0
6.4	10.6	13.8	6.7	15.0		18.2	16.2	10.0
0.6	1.6	0.9		1.7				10.0
8.6	10.1	11.2	10.0	10.0	50.0		10.8	10.0
0.9	2.6	0.9	3.3	5.0			8.1	
3.1	5.0	12.1		6.7			5.4	20.0
11.0	15.1	10.3	20.0	15.0		18.2	16.2	10.0
12.8	14.8	19.0	6.7	18.3		27.3	16.2	20.0
7.0	11.1	12.9	6.7	10.0		18.2	10.8	
3.4	3.7	3.4	3.3	1.7			2.7	
0.6	0.5	0.9		1.7				10.0
		(0.9)	(3.3)					
6.4	8.1	8.5		13.1		18.2	8.1	27.3
28.6	24.2	21.4	13.3	24.6		27.3	27.0	18.2
51.1	45.1	51.3	66.7	45.9	50.0	27.3	54.1	36.4
11.6	20.1	16.2	10.0	16.4	50.0	27.3	10.8	18.2
2.1	2.6	1.7	6.7					
0.3		0.9	3.3					
12.2	12.2	15.5		10.0		9.1	8.1	20.0
4.6	4.2	6.0	6.7	5.0	50.0	9.1	2.7	

第7表 作業姿勢別・作業環境別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	作 業 姿 勢				
		立 作 業	歩 き 作 業	中 腰 作 業	腰 作 か け 業	立 坐 作 っ た り 業
総 数	983	171	47	6	497	250
妊娠の異常があった者	713	113	33	5	379	174
（異常の内容）						
つわり強	79	8	5	2	47	15
後期妊娠中毒症	307	47	14	2	161	74
高血圧	33	3	2		23	4
蛋白尿	39	7	2		20	10
浮腫	126	20	4	1	64	35
上記症状 二以上合併症	109	17	6	1	54	25
流・早産の徴候	289	49	14	4	143	74
貧血	435	77	12	4	232	105
分娩の異常があった者	540	79	25	4	306	118
（異常の内容）						
分娩の時期						
流産	6	1			5	
早産	103	16	5	2	49	30
晩期産	55	6	2		31	15
分娩様式の異常	64	8	4		29	23
分娩時の異常	380	51	18	2	197	104
前・早期破水	148	34	7		76	29
微弱陣痛	96	22	6	1	44	22
双胎	10	1	1		6	2
切迫仮死等 胎児の状態異常	91	14	2		49	25
前置胎盤等	18	3	3		8	3
頸管等裂傷	49	3		1	32	12
その他	130	25	4		63	35
その他						
遅延分娩	141	23	7	1	66	40
異常出血	92	12	4		47	27
児の状態						
仮死産（蘇生）	33	10	2		15	6
死産	6	1	1	1	2	1
早期新生児死亡	②	①			①	
児の体重（分娩時）						
2,500g以下	77	13	6	3	35	19
2,501~2,999g	250	39	12	2	120	72
3,000~3,499g	473	86	22	1	244	115
3,500~3,999g	161	28	7		83	43
4,000g以上	22	5	1		12	3
無回答	4				4	
産状						
母乳分泌不良	117	18	6	1	58	32
褥瘡復古不全	46	8	2		26	9

注）分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実数)

そ の 他	有 害	作 業 環 境 検						該 当 な し
		高 温	低 温	う ち 冷 房	ほ 臭 こ り 気	騒 音	左 の 条 件 が 重 複 し た り な い	
12	640	25	125	8.5	178	108	204	343
9	472	20	97	64	133	77	145	241
2	55	4	8	7	19	10	14	24
9	195	11	47	30	54	31	52	112
1	20	2	7	4	3	2	6	13
	32	2	9	3	11	5	5	7
2	87	5	16	13	29	18	19	39
6	56	2	15	10	11	6	22	53
5	183	8	38	28	41	33	63	106
5	258	12	60	51	38	24	124	177
8	397	15	84	69	111	66	121	143
	2						2	4
1	81	3	17	14	19	12	30	22
1	37		5	4	12	9	11	18
	51	1	14	12	9	7	20	13
8	244	11	62	53	41	21	109	136
2	104	5	23	22	20	18	38	44
1	62	3	7	7	19	10	23	34
	7		1		1	2	3	3
1	52	2	12	11	11	6	21	39
1	11		2	2	6	3		7
1	37	3	11	11	6	2	15	12
3	86	2	27	22	19	15	23	44
4	99	4	13	8	28	15	39	42
2	63	3	22	17	13	11	14	29
	21		4	2	8	2	7	12
	4		1		1		2	2
	②	①	①					
1	61	3	11	10	18	9	20	16
5	153	2	32	19	40	29	50	97
5	312	13	59	38	94	52	94	161
	108	6	19	15	25	20	38	53
1	11	1	5	3	2		3	11
								4
2	92	5	17	12	30	13	27	25
1	27	2	5	3	10	2	8	19

第7表 作業姿勢別・作業環境別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	作 業 姿 勢				
		立 作 業	歩 き 作 業	中 腰 作 業	腰 作 か け 業	立坐作 つた たり業
総 数	(1000) 1000	(174) 1000	(48) 1000	(66) 1000	(50.6) 1000	(254) 1000
妊娠の異常があった者	725	661	702	833	763	696
（異常の内容）						
つわり強	80	4.7	10.6	33.3	9.5	6.0
後期妊娠中毒症	312	27.5	29.8	33.3	32.4	29.6
高血圧	34	1.8	4.3		4.6	1.6
蛋白尿	4.0	4.1	4.3		4.0	4.0
浮腫	12.8	11.7	8.5	16.7	12.9	14.0
上記症状 一以上合併症	11.1	9.9	12.8	16.7	10.9	10.0
流・早産の徴候	29.4	28.7	29.8	66.7	28.8	29.6
貧血	44.3	45.0	25.5	66.7	46.7	42.0
分娩の異常があった者	54.9	46.2	53.2	66.7	61.6	47.2
（異常の内容）						
分娩の時期						
流産	0.6	0.6			1.0	
早産	10.5	9.4	10.6	33.3	9.9	12.0
晩期産	5.6	3.5	4.3		6.2	6.0
分娩様式の異常	6.6	4.7	8.5		5.9	9.2
分娩時の異常	38.9	30.0	38.3	33.3	40.0	41.6
前・早期破水	15.1	20.0	14.9		15.4	11.6
敵弱陣痛	9.8	12.9	12.8	16.7	8.9	8.8
双胎	1.0	0.6	2.1		1.2	0.8
切迫仮死等	9.3	8.2	4.3		10.0	10.0
胎児の状態異常	1.8	1.8	6.4		1.6	1.2
前置胎盤等	5.0	1.3		16.7	6.5	4.8
頸管等裂傷	13.3	14.7	8.5		9.8	14.0
その他						
遅延分娩	14.4	13.5	14.9	16.7	13.4	16.0
異常出血	9.4	7.1	8.5		9.6	10.8
児の状態						
仮死産（蘇生）	3.4	5.9	4.3		3.0	2.4
死産	0.6	0.6	2.1	16.7	0.4	0.4
早期新生児死亡	(0.2)	(0.5)			(0.2)	
児の体重（分娩時）						
2,500g以下	7.8	7.6	12.5	50.0	7.0	7.5
2,501~2,999g	25.3	22.8	25.0	33.3	24.1	28.6
3,000~3,499g	47.9	50.3	45.8	16.7	49.0	45.6
3,500~3,999g	16.3	16.4	14.6		16.7	17.1
4,000g以上	2.2	2.9	2.1		2.4	1.2
無回答	0.4				0.8	
産状						
母乳分泌不良	12.0	10.6	12.8	16.7	11.8	12.8
褥瘡復古不全	4.7	4.7	4.3		5.3	3.6

(構成比%)

その他	有 害	作 業 環 境					該 当 な し
		高 温	低 温	う 冷 房	ほ 臭 こ り 気	騒 音	
(1.2) 100.0	(65.1) 100.0	(2.5) 100.0	(12.7) 100.0	(8.6) 100.0	(18.1) 100.0	(11.0) 100.0	(20.8) 100.0
75.0	73.8	80.0	77.6	75.3	74.7	71.3	71.1
16.7	8.6	16.0	6.4	8.2	10.7	9.3	6.9
75.0	30.5	44.0	37.6	35.3	30.3	28.7	25.5
8.3	3.1	8.0	5.6	4.7	1.7	1.9	2.9
	5.0	8.0	7.2	3.5	6.2	4.6	2.5
16.7	13.6	20.0	12.8	15.3	16.3	16.7	9.3
50.0	8.8	8.0	12.0	11.8	6.2	5.6	10.8
41.7	28.6	32.0	30.4	32.9	23.0	30.6	50.9
41.7	40.3	48.0	48.0	60.0	21.3	22.2	60.8
66.7	62.0	60.0	67.2	81.2	62.4	61.1	59.3
	0.3						1.0
8.3	12.7	12.0	13.6	16.5	10.7	11.1	14.7
8.3	5.8		4.0	4.7	6.7	8.3	5.4
	8.0	4.0	11.2	14.1	5.1	6.5	9.9
66.7	38.7	44.0	49.6	62.4	23.0	19.4	54.0
16.7	16.3	20.0	18.4	25.9	11.2	16.7	18.8
8.3	9.7	12.0	5.6	8.2	10.7	9.3	11.4
	1.1		0.8		0.6	1.9	1.5
8.3	8.2	8.0	9.6	12.9	6.2	5.6	10.4
8.3	1.7		1.6	2.4	3.4	2.8	
8.3	5.8	12.0	8.8	12.9	3.4	1.9	7.4
25.0	13.6	8.0	21.6	25.9	10.7	13.9	11.4
33.3	15.5	16.0	10.4	9.4	15.7	13.9	19.3
16.7	9.9	12.0	17.6	20.0	7.3	10.2	6.9
	3.3		3.2	2.4	4.5	1.9	3.5
	0.6		0.8		0.6		1.0
	(0.3)	(4.0)	(0.8)				
8.3	9.5	12.0	8.7	11.8	10.1	8.2	9.8
41.7	23.7	8.0	25.4	22.4	22.3	26.4	24.4
41.7	48.4	52.0	46.8	44.7	52.5	47.3	45.9
	16.7	24.0	15.1	17.6	14.0	18.2	18.5
8.3	1.7	4.0	4.0	3.5	1.1		1.5
							3.2
							1.2
16.7	14.4	20.0	13.6	14.1	16.9	12.0	13.4
8.3	4.2	8.0	4.0	3.5	5.6	1.9	4.0
							5.6

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

第8表 作業性質別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	負 担 強 と 思 わ れる 性 質	精 神 的 緊 張	同 じ 動 作 反 復	長 時 間 同 姿勢	動 物 等 の 介 入 有 無	他 要 素 重 複 と 思 わ れる 性 質	同 じ 動 作 の 反 復	精 神 的 緊 張
総 数	983	804	193	46	148	46	265	37	
妊娠の異常があった者	713	582	130	37	109	33	195	28	
（異常の内容）									
つわり強	79	69	13	1	14	5	26	4	
後期妊娠中毒症	307	247	60	9	46	8	85	11	
高血圧	33	23	9	1	6	1	4		
蛋白尿	39	33	11	1	3		16		
浮腫	126	98	18	5	20	5	33	6	
上記症状以上合併症	109	93	22	2	17	2	32	5	
流・早産の徴候	289	216	50	10	40	13	79	9	
貧血	435	356	72	27	76	20	121	16	
分娩の異常があった者	540	473	116	28	89	25	147	25	
（異常の内容）									
分娩の時期									
流産	6	6	1			1	2		
早産	103	78	19	7	12	3	26	3	
晩期産	55	47	13	2	10	3	13	3	
分娩様式の異常	64	51	21	1	10	1	13	3	
分娩時の異常	380	315	71	15	69	17	102	17	
前・早期破水	148	109	28	5	20	9	37	2	
微弱陣痛	96	86	20	6	13	6	27	4	
双胎	10	9	1		1		4	1	
切迫仮死等 胎児の状態異常	91	77	13	3	26	2	21	10	
前置胎盤等	18	15	4		2		7	1	
頸管等裂傷	49	46	9	1	11	1	18	4	
その他の他	130	106	32	4	22	7	32	3	
その他									
遅延分娩	141	117	29	11	24	4	34	6	
異常出血	92	76	23	3	11	3	27	3	
児の状態									
仮死産（蘇生）	33	28	8	1	10	1	6		
死産	6	4	1		1		2		
早期新生児死亡	②	②	①		①				
児の体重（分娩時）									
2,500g以下	77	67	13	6	6	2	28	2	
2,501~2,999g	250	225	52	8	34	11	89	12	
3,000~3,499g	473	373	90	20	84	18	110	18	
3,500~3,999g	161	127	32	10	24	13	36	6	
4,000g以上	22	13	4	1	1	1	4		
無回答	4	4	2	1					
産状									
母乳分泌不良	117	89	19	3	16	6	31	4	
褥瘡									
復古不全	46	41	5	1	5	5	15	5	

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実数)

(構成比%)

	該 当 な し	総 数	負 担 強 と 思 わ れる 性 質	精 神 的 緊 張	同 じ 動 作 反 復	長 時 間 同 姿勢	動 物 等 の 介 入 有 無	他 要 素 重 複 と 思 わ れる 性 質	同 じ 動 作 の 反 復	精 神 的 緊 張	該 当 な し
除重 他要素 除重											
69	179	(1000) 1000	(818) 1000	(196) 1000	(47) 1000	(151) 1000	(47) 1000	(270) 1000	(38) 1000	(70) 1000	(182) 1000
50	131	725	724	674	804	736	717	736	757	725	732
6	10	80	86	67	95	95	109	98	108	87	56
28	60	312	307	311	196	311	174	321	297	406	335
2	10	34	29	47	22	41	22	15		29	56
2	6	40	41	57	22	20		60		29	34
11	28	128	122	93	109	135	109	125	162	159	156
13	16	111	115	114	43	115	43	121	135	188	89
15	73	294	269	259	217	270	283	298	243	217	408
24	79	443	443	373	587	514	435	457	432	348	441
43	67	549	588	601	609	601	543	555	676	623	374
2		06	07	05			22	08		29	
8	25	105	97	98	152	81	65	98	81	116	140
3	8	56	58	67	43	68	65	49	81	43	45
2	13	66	63	109	22	68	22	49	81	30	23
24	65	389	395	370	326	466	378	388	459	358	363
8	39	151	137	146	109	135	200	141	54	119	218
10	10	98	108	104	130	88	133	103	108	149	56
2	1	10	11	05		07		15	27	30	06
2	14	93	96	68	65	176	44	80	270	30	78
1	3	18	19	21		14		27	27	15	17
2	3	50	58	47	22	74	22	68	108	30	17
6	24	133	133	167	87	149	156	122	81	90	134
9	24	144	147	151	239	162	89	129	162	134	134
6	16	94	95	120	65	74	67	103	81	90	89
2	5	34	35	42	22	68	22	23		30	28
	2	06	05	05		07		08			11
		02	03	05		07					
10	10	78	83	67	130	40	44	105	53	145	56
19	35	253	276	269	174	228	244	333	316	246	150
33	100	479	462	466	435	564	400	412	474	478	556
6	34	163	157	166	217	161	289	135	158	87	189
2	9	22	16	21	22	07	22	15		29	50
1		04	05	10	22					14	
10	28	120	111	99	65	108	133	118	108	149	156
5	5	47	51	26	22	34	111	57	135	75	28

第9表 妊娠のための業務軽減の有無別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	無		有	労働 時間 短縮	業務 量の 減	作業 姿勢 変更	時間 短縮	負担 軽減
		無	軽減 等あつても うち深夜勤						
総 数	983	740	26	243	119	35	11	60	
妊娠の異常があった者	713	543	22	170	83	25	9	39	
（異常の内容）									
つわり強	79	57	2	22	7	3		7	
後期妊娠中毒症	307	244	17	63	28	14	4	13	
高血圧	33	28	7	5	2			1	
蛋白尿	39	33	1	6	3			2	
浮腫	126	94	3	32	14	8		9	
上記症状以上合併症	109	89	6	20	9	6	4	1	
流・早産の徴候	289	215	10	74	33	12	3	19	
貧血	435	288	15	147	80	20	5	32	
分娩の異常があった者	540	410	22	130	62	19	8	31	
（異常の内容）									
分娩の時期									
流産	6	4		2				2	
早産	103	79	7	24	10	3	2	4	
晩産	55	45		10	3	3	1	3	
分娩様式の異常	64	46	1	18	10	2	1	4	
分娩時の異常	380	278	15	102	50	14	7	23	
前・早期破水	148	115	8	33	15	3	3	9	
微弱陣痛	96	76	3	20	9	3		7	
双胎	10	6	1	4	2	1	1		
切迫仮死等	91	58	3	33	13	2	2	9	
胎児の状態異常	18	12	2	6	3	1		1	
前置胎盤等	49	35	5	14	2	6	2		
頭管等裂傷	130	95	7	35	14	7	1	11	
その他									
遷延分娩	141	97	3	44	15	3	4	10	
異常出血	92	66	2	26	16	5		2	
児の状態									
仮死産（蘇生）	33	28	1	5	3			2	
死産	6	5	1	1	1				
早期新生児死亡	②	②	①						
児の体重（分娩時）									
2,500g以下	77	56	4	21	9	3	3	4	
2,501~2,999g	250	191	7	59	26	10	3	14	
3,000~3,499g	473	360	11	113	55	17	6	27	
3,500~3,999g	161	113	5	48	29	6		11	
4,000g以上	22	18		4	2			2	
無回答	4	4							
産状									
母乳分泌不良	117	95	3	22	10	4		6	
復古不全	46	39		7	6	1			

注）分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

（実 数）

そ の 他	総 数	無		有	労働 時間 短縮	業務 量の 減	作業 姿勢 変更	時間 短縮	負担 軽減	そ の 他
		無	軽減 等あつても うち深夜勤							
18	(1000) 1000	(75.3) 1000	(2.6) 1000	(24.7) 1000	(12.1) 1000	(3.6) 1000	(1.1) 1000	(6.1) 1000	(1.8) 1000	
14	72.5	73.4	84.6	70.0	69.7	71.4	81.8	65.0	77.8	
5	8.0	7.7	7.7	9.1	5.9	8.6		11.7	27.8	
4	31.2	33.0	65.4	25.9	23.5	40.0	36.4	21.7	22.2	
2	3.4	3.8	26.9	2.1	1.7			1.7	11.1	
1	4.0	4.5	3.8	2.5	2.5			3.3	5.6	
1	12.8	12.7	11.5	13.2	11.8	22.9		15.0	5.6	
	11.1	12.0	23.1	8.2	7.6	17.1	36.4	1.7		
7	29.4	29.1	38.5	30.5	27.7	34.3	27.3	31.7	38.9	
10	44.3	38.9	57.7	60.5	67.2	57.1	45.5	53.3	55.6	
10	54.9	55.4	84.6	53.5	52.1	54.3	72.7	51.7	55.6	
	0.6	0.5		0.8				3.3		
5	10.5	10.7	26.9	9.9	8.4	8.6	18.2	6.7	27.8	
	5.6	6.1		4.1	2.5	8.6	9.1	5.0		
1	6.6	6.3	3.8	7.5	8.4	5.7	9.1	6.9	5.6	
8	38.9	37.8	57.7	42.3	42.0	40.0	63.6	39.7	44.4	
3	15.1	15.6	30.8	13.7	12.6	8.6	27.3	15.5	16.7	
1	9.8	10.3	11.5	8.3	7.6	8.6		12.1	5.6	
	1.0	0.8	3.8	1.7	1.7	2.9	9.1			
7	9.3	7.9	11.5	13.7	10.9	5.7	18.2	15.5	38.9	
1	1.8	1.6	7.7	2.5	2.5	2.9		1.7	5.6	
4	5.0	4.8	19.2	5.8	1.7	17.1	18.2		22.2	
2	13.3	12.9	26.9	14.5	11.8	20.0	9.1	19.0	11.1	
12	14.4	13.2	11.5	18.3	12.6	8.6	36.4	17.2	66.7	
3	9.4	9.0	7.7	10.8	13.4	14.3		3.4	16.7	
	3.4	3.8	3.8	2.1	2.5					
	0.6	0.7	3.8	0.4	0.8					
	(0.2)	(0.3)	(3.8)							
2	7.8	7.5	14.8	8.6	7.4	8.3	25.0	6.9	11.1	
6	25.3	25.7	25.9	24.1	21.5	27.8	25.0	24.1	33.3	
8	47.9	48.5	40.7	46.1	45.5	47.2	50.0	46.6	44.4	
2	16.3	15.2	18.5	19.6	24.0	16.7		19.0	11.1	
	2.2	2.4		1.6	1.7			3.4		
	0.4	0.5								
2	12.0	12.9	11.5	9.1	8.4	11.4		10.3	11.1	
	4.7	5.3		2.9	5.0	2.9				

第10表 産前休業日数別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	0 日	1 日				その他
			仕 事 の 合 計	都 合	体 調 が よ か つ た	流 ・ 早 産 の た め	
総 数	983	100	12		55	21	12
妊娠の異常があった者	713	62	4		26	21	11
(異常の内容)							
つわり強	79	5	1			3	1
後期妊娠中毒症	307	38			21	6	11
高血圧	33	1			1		
蛋白尿	39	13			12		1
浮腫	126	13			4	2	7
上記症状以上合併症	109	11			4	4	3
流・早産の徴候	289	35	1		11	16	7
貧血	435	39	1		20	7	11
分娩の異常があった者	540	60	2		31	18	9
(異常の内容)							
分娩の時期							
流産	6	6				6	
早産	103	15			4	7	4
晩期産	55	3			1		2
分娩様式の異常	64	5			2	2	1
分娩時の異常	380	34	1		15	9	9
前・早期破水	148	17	1		6	7	3
微弱陣痛	96	6			1	1	4
双胎	10	1					1
切迫仮死等 胎児の状態異常	91	7			5	1	1
前置胎盤等	18	1			1		
頸管等裂傷	49						
その他	130	12			5	4	3
その他							
遷延分娩	141	6			5		1
異常出血	92	6	1		4		1
児の状態							
仮死産(蘇生)	33						
死産	6	1				1	
早期新生児死亡	②						
児の体重(分娩時)							
2,500g以下	77	12			3	8	1
2,501~2,999g	250	27	6		18	1	2
3,000~3,499g	473	40	6		26	3	5
3,500~3,999g	161	12			6	3	3
4,000g以上	22	4			2		2
無回答	4						
産後							
母乳分泌不良	117	9			2	5	2
褥瘡	46	4			4		

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実数)

1 20 日	21 35 日	36 41 日	42 日 以上	産 休 前 に 退 職	妊 娠 6 ヶ 月 未 満	6 7 8 ヶ 月 未 満	8 ヶ 月 以 降
51	126	86	330	290	91	145	54
38	98	58	252	205	66	95	44
4	15	10	29	16	3	7	6
13	48	25	72	111	40	49	22
3	3	7	4	15	8	3	4
1	5	4	3	13	5	7	1
5	21	8	39	40	12	16	12
4	19	6	26	43	15	23	5
14	45	24	103	68	26	28	14
18	61	44	147	126	45	41	40
39	82	41	145	173	46	89	38
17	24	3	14	30	10	17	3
	2	1	31	18	4	12	2
	4	10	29	16	4	10	2
13	49	37	125	122	34	53	35
6	25	19	29	52	18	20	14
2	6	8	38	36	9	21	6
	3		1	5	1	3	1
5	11	14	41	13	3	7	3
	1		11	5	1	1	3
1	10	8	26	4	2	2	
4	17	8	43	46	9	24	13
6	13	12	57	47	13	24	10
4	18	3	34	27	5	19	3
2	5	1	13	12	1	8	3
1	1			3		2	1
①	①						
7	13	6	14	25	4	18	3
14	43	21	80	65	23	31	11
24	55	43	156	155	48	76	31
5	13	12	75	44	16	18	10
	3	4	5	6	1	5	
1	2		1				
4	14	16	36	38	10	25	3
	4	4	21	13	6	4	3

第10表 産前休業日数別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	0 日	仕 事 の 合 計	体 調 が よ か つ た	流 産 の た め	そ の 他
総 数	(1000) 1000	(102) 1000	(12) 1000	(56) 1000	(21) 1000	(12) 1000
妊娠の異常があった者	725	620	333	473	1000	917
(異常の内容)						
つわり強	80	50	83		143	83
後期妊娠中毒症	312	380		382	286	917
高血圧	34	10		18		
蛋白尿	40	130		218		83
浮腫	128	130		73	95	583
上記症状以上合併症	111	110		73	190	250
流・早産の徴候	294	350	83	200	762	583
貧血	443	390	83	364	333	917
分娩の異常があった者	549	600	167	564	857	750
(異常の内容)						
分娩の時期						
流産	06	60			286	
早産	105	150		73	333	333
晩期産	56	30		18		167
分娩様式の異常	66	53		36	133	83
分娩時の異常	389	382	83	273	600	750
前・早期破水	151	181	83	109	467	250
微弱陣痛	98	64		18	67	333
双胎	10	11				83
切迫仮死等	93	74		91	67	83
胎児の状態異常						
前置胎盤等	18	11		18		
頸管等裂傷	50					
その他の	133	128		91	267	250
その他						
遷延分娩	144	64		91		83
異常出血	94	64	83	73		83
児の状態						
仮死産(蘇生)	34					
死産	06	11			67	
早期新生児死亡	(02)					
児の体重(分娩時)						
2,500g以下	78	126		55	533	77
2,501~2,999g	253	284	500	327	67	154
3,000~3,499g	479	421	500	473	200	385
3,500~3,999g	163	126		109	200	231
4,000g以上	22	42		36		154
無回答	04					
産後						
母乳分泌不良	120	96		36	333	167
褥瘡復古不全	47	43		73		

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(構成比%)

1 20 日	21 35 日	36 41 日	42 日 以上	産 休 前 に 退 職	妊 娠 6 ヶ 月 未 満	6 ヶ 月 未 満	8 ヶ 月 以 降
(52) 1000	(128) 1000	(87) 1000	(336) 1000	(295) 1000	(93) 1000	(148) 1000	(55) 1000
74.5	77.8	67.4	76.4	70.7	72.5	65.5	81.5
7.8	11.9	11.6	8.8	5.5	3.3	4.8	11.1
25.5	38.1	29.1	21.8	38.3	44.0	33.8	40.7
5.9	2.4	8.1	1.2	5.2	8.8	2.1	7.4
2.0	4.0	4.7	0.9	4.5	5.5	4.8	1.9
9.8	16.7	9.3	11.8	13.8	13.2	11.0	22.2
7.8	15.1	7.0	7.9	14.8	16.5	15.9	9.3
27.5	35.7	27.9	31.2	23.4	28.6	19.3	25.9
35.3	48.4	51.2	44.5	43.4	49.5	28.3	74.1
76.5	65.1	47.7	43.9	59.7	50.5	61.4	70.4
33.3	19.0	3.5	4.2	10.3	11.0	11.7	5.6
	1.6	1.2	9.4	6.2	4.4	8.3	3.7
	3.2	11.6	8.8	9.7	3.3	11.0	16.7
25.5	38.9	43.0	37.9	42.1	37.4	36.6	64.8
11.8	19.8	22.1	8.8	17.9	19.8	13.8	25.9
3.9	4.8	9.3	11.5	12.4	9.9	14.5	11.1
	2.4		0.3	1.7	1.1	2.1	1.9
9.8	8.7	16.3	12.4	4.5	3.3	4.8	5.6
	0.8		3.3	1.7	1.1	0.7	5.6
2.0	7.9	9.3	7.9	1.4	2.2	1.4	
7.8	13.5	9.3	13.0	15.9	9.9	16.6	24.1
11.8	10.3	14.0	17.3	16.2	14.3	16.6	18.5
7.8	14.3	3.5	10.3	9.3	5.5	12.1	5.6
3.9	4.0	1.2	3.9	4.1	1.1	5.5	5.6
2.0	0.8			1.0		1.4	1.9
(02)	(08)						
13.7	10.1	7.0	4.2	8.5	4.3	12.2	5.5
27.5	33.3	24.4	24.2	22.0	25.0	20.9	20.0
47.1	42.6	50.0	47.1	52.5	52.2	51.4	56.4
9.8	10.1	14.0	22.7	14.9	17.4	12.2	18.2
	2.3	4.7	1.5	2.0	1.1	3.4	
2.0	1.6		0.3				
7.8	11.1	18.6	10.9	13.1	11.0	17.2	5.6
	3.2	4.7	6.4	4.5	6.6	2.8	5.6

第11表 通勤所要時間(片道)別、通勤時の苦痛の有無別妊娠・分娩・

	総 数	30 分 以			計	苦 痛 あ り	う ち 段 多 い
		計	苦 痛 あ り	苦 痛 な し			
総 数	983	441	233	498	404	91	33
妊娠の異常があった者	713	320	171	361	307	70	27
(異常の内容)							
つわり強	79	44	22	33	34	14	5
後期妊娠中毒症	307	129	66	166	142	33	13
高血圧	33	12	4	20	16	2	1
蛋白尿	39	17	9	21	19	4	3
浮腫	126	51	24	70	59	14	3
上記症状以上合併症	109	49	29	55	48	13	6
流・早産の徴候	289	136	74	141	120	30	11
貧血	435	210	98	208	189	54	13
分娩の異常があった者	540	250	178	264	219	57	23
(異常の内容)							
分娩の時期							
流産	6	2	2	4	1		
早産	103	50	37	50	45	10	5
晩期産	55	29	13	21	16	4	1
分娩様式の異常	64	32	23	31	24	4	2
分娩時の異常	380	165	96	195	166	35	17
前・早期破水	148	58	31	81	64	12	2
微弱陣痛	96	50	33	42	39	13	9
双胎	10	7	5	3	4	2	1
切迫死等	91	52	28	35	34	11	6
胎児の状態異常	18	8	3	7	6	1	
前置胎盤等	49	28	20	15	10	1	1
頸管等裂傷	130	61	38	64	56	15	5
その他							
遷延分娩	141	64	36	73	69	18	9
異常出血	92	46	30	45	34	5	1
児の状態							
仮死産(蘇生)	33	19	13	13	13	5	3
死産	6	4	4	2	2	1	1
早期新生児死亡	②	①		①			
児の体重(分娩時)							
2,500g以下	77	41	29	35	40	12	5
2,501~2,999g	250	107	61	133	101	20	6
3,000~3,499g	473	210	94	238	197	47	15
3,500~3,999g	161	75	43	80	63	13	7
4,000g以上	22	12	9	9	6	1	1
無回答	4	1		2			
産状							
母乳分泌不良	117	55	40	60	50	10	5
褥瘡復古不全	46	19	13	23	22	5	4

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

産褥経過

(実 数)

下	31 ~ 60 分				61 分 以 上				無 回 答
	苦 痛 な し	計	苦 痛 あ り	う ち 段 多 い	苦 痛 な し	計	苦 痛 あ り	う ち 段 多 い	
313	368	225	104	143	167	125	96	42	44
237	254	161	78	93	120	89	66	31	32
20	30	20	8	10	13	10	8	3	2
109	93	54	28	39	60	42	25	18	12
14	9	5	2	4	7	5	1	2	1
15	11	8	4	3	8	5	2	3	1
45	39	21	10	18	23	16	11	7	5
35	34	20	12	14	22	16	11	6	5
90	97	64	33	33	60	42	30	18	12
135	163	105	46	58	66	51	39	15	17
162	202	123	87	79	93	70	68	23	26
1	4	1	1	3	1	1	1		
35	35	26	20	9	20	14	12	6	3
12	22	17	6	5	12	8	6	4	5
20	25	15	10	10	14	13	11	1	1
131	136	85	46	51	58	45	33	13	20
52	53	28	17	25	22	18	12	4	9
26	36	24	13	12	17	13	11	4	4
2	4	3	2	1	2	2	2		
23	36	26	10	10	17	15	12	2	4
5	7	7	3		2		2	2	3
9	18	13	6	5	15	14	13	1	6
41	49	31	21	18	20	15	12	5	5
51	48	30	16	18	20	16	11	4	4
29	39	28	18	11	18	13	11	5	1
8	14	10	6	4	5	4	4	1	1
1	1	1	1		3	2	2	1	
	①			①	①	①			
28	22	17	14	5	14	12	10	2	1
81	92	52	28	40	47	35	27	12	10
150	172	107	35	65	79	56	44	23	25
50	65	39	20	26	27	23	16	4	6
5	14	11	8	3	1			1	1
	3	1		2					1
40	43	25	19	18	22	20	16	2	2
17	12	9	5	3	8	5	4	3	4

第11表 通勤所要時間(片道)、通勤時の苦痛の有無別妊娠・分娩・

産褥経過

(構成比%)

		30 分 以 上						
		計	苦痛あり	うち 多い 段階	苦痛なし	計	苦痛あり	うち 多い 段階
総 数		(1000) 1000	(449) 1000	(237) 1000	(507) 1000	(411) 1000	(93) 1000	(34) 1000
妊娠の異常があった者		725	726	734	725	760	769	818
(異常の内容)	つわりの強	80	100	94	66	84	154	182
	後期妊娠中毒症	312	293	283	333	351	363	394
	高血圧	34	27	17	40	40	22	30
	蛋白尿	40	39	39	42	47	44	91
	浮腫	128	116	103	141	146	154	91
	上記症状 以上合併症	111	111	124	110	119	143	182
	流・早産の徴候	294	308	318	283	297	330	333
	貧血	443	476	421	418	468	593	394
	分娩の異常があった者	549	567	764	530	542	626	697
	分娩の時期							
異 常 の 内 容	流産	06	05	09	08	02		
	早産	105	113	159	100	111	110	152
	晩期産	56	66	56	42	40	44	30
	分娩様式の異常	66	73	100	63	60	44	61
	分娩時の異常	389	376	416	395	412	385	515
	前・早期破水	151	132	134	164	159	132	61
	微弱陣痛	98	114	143	85	97	143	273
	双胎	10	16	22	06	10	22	30
	切迫仮死等 胎児の状態異常	93	118	121	71	84	121	182
	前置胎盤等	18	18	13	14	15	11	
内 容	頸管等裂傷	50	64	87	30	25	11	30
	その他	133	139	165	130	139	165	152
	遅延分娩	144	146	156	148	171	198	273
	異常出血	94	105	130	91	84	55	30
	仮死産(蘇生)	34	43	56	26	32	55	97
	死産	05	09	17	04	05	11	30
	早期新生児死亡	(02)	(02)		(02)			
	児の体重(分娩時)							
	2,500g以下	78	92	123	70	98	129	147
	2,501~2,999g	253	240	258	268	248	215	176
産 状	3,000~3,499g	479	471	398	479	484	505	441
	3,500~3,999g	163	168	182	161	155	140	206
	4,000g以上	22	27	38	18	15	11	29
	無回答	04	02		04			
	母乳分泌不良	120	125	173	121	124	110	152
	褥瘡復古不全	47	43	56	47	55	55	121

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

		31 ~ 60 分							61 分 以 上		無 回 答
		計	苦痛あり	うち 多い 段階	苦痛なし	計	苦痛あり	うち 多い 段階	計	苦痛なし	
下		(318) 1000	(374) 1000	(229) 1000	(106) 1000	(145) 1000	(170) 1000	(127) 1000	(98) 1000	(43) 1000	(45)
		757	690	716	750	650	719	712	688	738	
		64	82	89	77	70	78	80	83	71	
		348	253	240	269	273	359	336	260	429	
		45	24	22	19	28	42	40	10	48	
		48	30	36	38	21	48	40	21	71	
		144	106	93	96	126	138	128	115	167	
		112	92	89	115	98	132	128	115	143	
		288	264	284	317	231	359	336	313	429	
		431	443	467	442	406	395	408	406	357	
		518	549	547	837	552	557	560	708	548	
		03	11	04	10	21	05	08	10		
		112	95	116	192	63	120	112	125	143	
		38	60	76	58	35	72	64	63	95	
		64	69	67	97	71	84	105	116	24	
		420	374	379	447	364	347	363	347	310	
		167	146	125	165	179	132	145	126	95	
		83	99	107	126	86	102	105	116	95	
		06	11	13	19	07	12	16	21		
		74	99	115	97	71	102	121	126	48	
		16	19	31	29		12			48	
		29	49	58	58	36	90	113	137	24	
		131	135	138	204	129	120	121	126	119	
		163	132	134	155	129	120	129	115	95	
		93	107	125	175	79	108	105	115	119	
		26	38	45	58	29	30	32	42	24	
		03	03	04	10		18	16	21	24	
			(03)			(07)	(06)	(08)			
		89	60	75	133	35	83	95	103	48	
		258	250	229	267	284	280	278	278	286	
		478	467	471	333	461	470	444	454	548	
		159	177	172	190	184	161	183	165	95	
		16	38	48	76	21	06			24	
			08	04		14					
		128	118	112	184	129	132	161	168	48	
		54	33	40	49	21	48	40	42	71	

第12表 通勤方法・混雑の程度別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	通 勤 の 方					
		徒歩 のみ	自 転 車	自 家 用 車	本人運 転 うち	主 に バ ス	
総 数	983	163	11	67	18	157	
妊娠の異常があった者	713	130	6	45	12	113	
(異常の内容)							
つわり強	79	13	2	4		13	
後期妊娠中毒症	307	60	3	25	7	45	
高血圧	33	6		2	1	7	
蛋白尿	39	7	1	5	1	6	
浮腫	126	27	1	9	3	16	
上記症状以上合併症	109	20	1	9	2	16	
流・早産の徴候	289	56	2	20	6	46	
貧血	435	72	4	27	6	68	
分娩の異常があった者	540	91	6	33	6	69	
(異常の内容)							
分娩の時期							
流産	6					2	
早産	103	15	1	9	2	22	
晩期産	55	3	1	3		9	
分娩様式の異常	64	16	1	1		12	
分娩時の異常	380	71	3	25		51	
前・早期破水	148	28		11		20	
微弱陣痛	96	13	1	4		8	
双胎	10	2				2	
切迫仮死等	91	14	1	7		9	
胎児の状態異常	18	3		1		3	
前置胎盤等	49	5		3		1	
頸管等裂傷	130	20		9		20	
その他							
遅延分娩	141	24	2	13	2	14	
異常出血	92	17		1		20	
児の仮死産(蘇生)	33	5		2	1	6	
死産	6					2	
早期新生児死亡	②						
児の体重(分娩時)							
2,500g以下	77	13	2	1	1	16	
2,501~2,999g	250	44	1	20	5	48	
3,000~3,499g	473	75	6	31	9	73	
3,500~3,999g	161	28	2	11	2	20	
4,000g以上	22	3		3	1		
無回答	4	2		1			
産状							
母乳分泌不良	117	21	2	10	3	15	
褥瘡	46	9		3		2	

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実数)

法	バスと電車の混雑の程度						無 回 答
	主に 電車	バ ス と 電 車 半 々	そ の 他	常 に 腰 に か か た	時 々 腰 に か か た	肩 の 中 に 立 ち 上 り の 中 で 合 常	
450	71	21	155	270	119	117	43
331	44	13	107	206	85	80	31
35	7	3	11	24	11	8	2
140	16	6	49	83	25	38	12
14	1	2	7	8	1	5	1
19			4	12	4	4	1
58	6	4	19	35	11	13	5
49	9		19	28	9	16	5
133	16	5	45	85	28	33	11
216	26	5	64	126	60	55	17
278	35	7	75	162	65	71	21
4			1	2	1	2	
44	6	4	18	29	10	14	2
30	4		11	21	3	5	5
29	3	1	13	21	5	4	1
187	22	2	60	103	46	44	19
71	9		21	46	21	12	9
59	7		14	32	12	13	4
5	1		1	3	1	2	1
52	4	1	15	27	14	5	3
9			3	6	1	2	2
30	4		3	10	10	10	6
67	8	1	21	45	17	11	5
71	12	1	21	43	13	18	4
47	6		19	33	9	11	1
17	2		4	9	7	4	1
4			2	2	1	1	
②			①	①			
37	7		10	26	9	12	1
107	16	5	37	67	28	34	9
218	32	13	84	119	59	53	25
77	15	2	21	55	18	16	6
12	2	1	3	4	5	2	1
							1
59	6	2	17	37	13	11	2
28			2	24	3	1	4

第12表 通勤方法・混雑の程度別妊娠・分娩・産褥の経過

	総 数	通 勤 の 方 法				
		徒歩 のみ	自 転 車	自 家 用 車	本 人 運 転 の うち	主 に バ ス
総 数	(1000) 1000	(166) 1000	(11) 1000	(68) 1000	(18) 1000	(160) 1000
妊娠の異常があった者	725	798	545	672	667	720
（異常の内容）						
つわり強	80	80	182	60		83
後期妊娠中毒症	312	368	273	373	389	287
高血圧	34	37		30	56	45
蛋白尿	40	43	91	75	56	38
浮腫	128	166	91	134	167	102
上記症状以上合併症	111	123	91	134	111	102
流・早産の徴候	294	344	182	299	333	293
貧血	443	442	364	403	333	433
分娩の異常があった者	549	558	545	493	333	439
（異常の内容）						
分娩の時期						
流産	06					13
早期産	105	92	91	134	111	140
晩期産	56	18	91	45		57
分娩様式の異常	66	99	91	15		77
分娩時の異常	389	441	273	373		329
前・早期破水	151	174		164		129
微弱陣痛	98	81	91	60		52
双胎	10	12				13
切迫仮死等	93	87	91	104		58
胎児の状況異常等	18	19		15		19
前置胎盤等	50	31		45		06
頭管等裂傷	133	124		134		129
その他						
遷延分娩	144	149	182	194	111	90
異常出血	94	106		15		129
児の状況						
仮死産（蘇生）	34	31		30	56	39
死産	06					13
早期新生児死亡	(02)					
児の体重（分娩時）						
2,500g以下	78	79	182	15	56	102
2,501~2999g	253	267	91	299	278	306
3,000~3,499g	479	455	545	463	500	465
3,500~3,999g	163	170	182	164	111	127
4,000g以上	22	18		45	56	
無回答	04	12		15		
産状						
母乳分泌不良	120	130	182	149	167	97
褥瘡復古不全	47	56		45		13

(構成比%)

(平成16年)

法			バス・電車		の混雑の程度			無 回 答
主 に 電 車	バ ス と 電 車 半 々	そ の 他	常 に 腰 に か か る	時 々 腰 に か か る	肩 の ふ れ 合 わ ない 混 雑 の 程 度	中 に 立 ち 上 り に 困 る 程 度	そ の 他	
(458) 1000	(72) 1000	(21) 1000	(158) 1000	(275) 1000	(121) 1000	(119) 1000	(123) 1000	(44)
736	620	619	690	763	714	684	588	
78	99	143	71	89	92	68	59	
311	225	286	316	307	210	325	353	
31	14	95	45	30	08	43	59	
42			26	44	34	34	59	
129	85	190	123	130	92	111	118	
109	127		123	104	76	137	118	
296	225	238	290	315	235	282	235	
480	366	238	413	467	504	470	294	
618	493	333	484	600	546	607	529	
09			06	07	08	17		
98	85	190	116	107	84	120	59	
67	56		71	78	25	43	176	
65	42	48	84	78	42	35	59	
419	310	95	390	384	390	383	412	
159	127		136	172	178	104		
132	99		91	119	102	113	176	
11	14		06	11	08	17	59	
117	56	48	97	101	119	43	235	
20			19	22	08	17		
67	56		19	37	85	87	118	
150	113	48	136	168	144	96	59	
159	169	48	136	160	110	157	118	
105	85		123	123	76	96	59	
38	28		26	34	59	35	59	
09			13	07	08	09		
04			(06)	(04)				
82	97		65	96	76	103	167	
237	222	238	239	247	235	291	278	
483	444	619	542	439	496	453	444	
171	208	95	135	203	151	137	111	
27	28	48	19	15	42	17		
132	85	95	110	138	110	96	118	
63			13	90	25	09		

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

第18表 休養・睡眠・栄養の摂取状況別妊娠・分娩・産褥経過

	総 数	休養・と れず 栄養・睡 眠とも	栄養・と れず 睡眠は とれず	休養・と れず 睡眠は とれず	
総 数	983	481	397	38	
妊娠の異常があった者	713	346	284	31	
(異常の内容)					
つわり強	79	38	22	12	
後期妊娠中毒症	307	147	122	15	
高血圧	33	19	11	1	
蛋白尿	39	18	15	1	
浮腫	126	59	52	8	
上記二以上合併症	109	51	44	5	
流・早産の徴候	289	144	103	15	
貧血	435	217	169	13	
分娩の異常があった者	540	232	218	27	
(異常の内容)					
分娩の時期					
流産	6	1	1		
早産	103	43	45	6	
晩期産	55	33	14	4	
分娩様式の異常	64	35	24	2	
分娩時の異常	380	190	143	22	
前・早期破水	148	75	59	4	
微弱陣痛	95	54	27	10	
双胎	10	4	4	1	
切迫仮死等	91	41	34	6	
胎児の状況異常	18	8	7	1	
前置胎盤等	49	23	23	2	
頭管等裂傷	130	67	43	8	
その他					
遅延分娩	141	86	37	10	
異常出血	92	42	42	3	
児の状態					
仮死産(蘇生)	33	16	15	1	
死産	6	2	1	1	
早期新生児死亡	②	②			
児の体重(分娩時)					
2,500g以下	77	23	39	6	
2,501~2,999g	250	121	99	13	
3,000~3,499g	473	236	192	18	
3,500~3,999g	161	87	63	2	
4,000g以上	22	16	5		
無回答	4	1	2		
産状					
母乳分泌不良	117	47	50	13	
褥瘡					
復古不全	46	21	17	4	

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(実 数)

(構成比%)

	総 数	休養・と れず 栄養・睡 眠とも	栄養・と れず 睡眠は とれず	休養・と れず 睡眠は とれず	
	(1000)	(489)	(404)	(39)	(68)
67	1000	1000	1000	1000	1000
52	725	719	715	816	776
7	80	79	55	316	104
23	312	306	307	395	343
2	34	40	28	26	30
5	40	37	38	26	75
7	128	123	131	211	104
9	111	106	111	132	134
27	294	299	259	395	403
36	443	451	426	342	537
63	549	482	549	711	940
4	06	02	03		60
9	105	89	113	158	134
4	56	69	35	105	60
3	66	73	61	53	48
25	389	396	361	579	397
10	151	156	149	105	159
5	98	113	68	263	79
1	10	08	10	26	16
10	93	85	86	158	159
2	18	17	18	26	32
1	50	48	58	53	16
12	133	140	109	211	190
8	144	179	93	263	127
5	94	88	106	79	79
1	34	33	38	26	16
2	06	04	03	26	32
	(02)	(04)			
9	78	48	98	154	141
17	253	250	248	333	256
27	479	488	480	462	422
9	163	180	158	51	141
1	22	33	13		16
1	04	02	05		16
7	120	98	126	342	111
4	47	44	43	105	63

第14表 家庭生活状況別妊娠・分娩・産褥経過 (実数)

	総 数	住 居 の 環 境			家 族 核 家 族
		良	不 良	う 階 段 多	
総 数	983	560	423	279	790
妊娠の異常があった者	713	398	315	207	566
つ わ り 強	79	45	34	19	52
後期妊娠中毒症	307	163	144	90	240
高 血 圧	33	17	16	7	25
蛋 白 尿	39	16	23	11	32
浮 腫	126	70	56	35	104
上記症状 二以上合併症	109	60	49	37	79
流・早産の徴候	289	181	108	75	234
貧 血	435	240	195	126	358
分娩の異常があった者	540	275	265	163	428
分娩の時期					
流 産	6	2	4	3	5
早 産	103	62	41	21	85
晩 期 産	55	30	25	14	41
分娩様式の異常	64	32	32	19	50
分娩時の異常	380	203	177	117	302
前・早期破水	148	92	56	33	126
微弱陣痛	96	45	51	34	86
双胎	10	6	4	2	5
切迫仮死等	91	54	37	25	69
胎児の状態異常等	18	6	12	6	11
前置胎盤等	49	26	23	14	43
頸管等裂傷	130	65	65	40	102
その他					
遅延分娩	141	74	67	42	116
異常出血	92	57	35	25	73
児の状況					
仮死産(蘇生)	33	18	15	7	26
死 産	6	2	4	3	2
早期新生児死亡	②	②			①
児の体重(分娩時)					
2,500g以下	77	42	35	19	56
2,501~2,999g	250	142	108	75	188
3,000~3,499g	473	267	206	133	396
3,500~3,999g	161	99	62	44	133
4,000g以上	22	14	8	4	15
無 回 答	4		4	3	2
産状					
母乳分泌不良	117	71	46	28	89
褥況復古不全	46	26	20	14	36

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(構成比%)

型 態 そ の 他	総 数	住 居 の 環 境			家 族 型 態	
		良	不 良	う 階 段 多	核 家 族	そ の 他
193	(1000) 1000	(570) 1000	(430) 1000	(284) 1000	(804) 1000	(196) 1000
147	72.5	71.1	74.5	74.2	71.6	76.2
27	80	80	80	68	66	14.0
67	31.2	29.1	34.0	32.3	30.4	34.7
8	3.4	3.0	3.8	2.5	3.2	4.1
7	4.0	2.9	5.4	3.9	4.1	3.6
22	12.8	12.5	13.2	12.5	13.2	11.4
30	11.1	10.7	11.6	13.3	10.0	15.5
55	29.4	32.3	25.5	26.9	29.6	28.5
77	44.3	42.9	46.1	45.2	45.3	39.9
112	54.9	49.1	62.6	58.4	54.2	58.0
1	0.6	0.4	0.9	1.1	0.6	0.5
18	10.5	11.1	9.7	7.5	10.8	9.3
14	5.6	5.4	5.9	5.0	5.2	7.3
14	6.6	5.7	7.6	6.9	6.4	7.3
78	38.9	36.4	42.2	42.4	38.5	40.6
22	15.1	16.5	13.4	12.0	16.1	11.5
10	9.8	8.1	12.2	12.3	11.0	5.2
5	1.0	1.1	1.0	0.7	0.6	2.6
22	9.3	9.7	8.8	9.1	8.8	11.5
7	1.8	1.1	2.9	2.2	1.4	3.6
6	5.0	4.7	5.5	5.1	5.5	3.1
28	13.3	11.6	15.5	14.5	13.0	14.6
25	14.4	13.3	16.0	15.2	14.8	13.0
19	9.4	10.2	8.4	9.1	9.3	9.9
7	3.4	3.2	3.6	2.5	3.3	3.6
4	0.6	0.4	1.0	1.1	0.3	2.1
①	(0.2)	0.4			(0.1)	(0.5)
21	7.8	7.4	8.3	6.8	7.1	10.7
62	25.3	25.2	25.5	27.0	23.8	31.5
77	47.9	47.3	48.7	47.8	50.1	39.1
28	16.3	17.6	14.7	15.8	16.8	14.2
7	2.2	2.5	1.9	1.4	1.9	3.6
2	0.4		0.9	1.1	0.3	1.0
28	12.0	12.7	11.0	10.1	11.3	14.6
10	4.7	4.7	4.8	5.1	4.6	5.2

第15表 生理休暇取得状況別妊娠・分娩・産褥経過 (実数)

	総 数	休 ま た な か	不 要	休 か め た な	時 々 休 ん だ	毎 月 一 日 休 ん だ	毎 月 二 日 休 ん だ
総数	983	635	448	187	208	75	57
妊娠の異常があった者	713	452	318	134	146	61	46
(異常の内容)							
つわり強	79	46	33	13	13	8	10
後期妊娠中毒症	307	199	133	66	53	31	20
高血圧	33	19	15	4	7	3	4
蛋白尿	39	28	15	13	7	3	
浮腫	126	79	57	22	24	11	10
上記症状二以上合併症	109	73	46	27	15	14	6
流・早産の徴候	289	183	128	55	60	28	17
貧血	435	268	178	90	98	30	32
分娩の異常があった者	540	324	230	94	121	46	42
(異常の内容)							
分娩の時期							
流産	6	4	3	1	1		1
早産	103	54	36	18	22	8	17
晩期産	55	34	24	10	8	7	6
分娩様式の異常	64	44	30	14	13	2	5
分娩時の異常	380	231	167	64	84	28	31
前・早期破水	148	85	68	17	34	14	12
微弱陣痛	96	52	37	15	27	10	6
双胎	10	8	7	1	1		1
切迫仮死等	91	56	41	15	18	6	10
胎児の状態異常	18	12	8	4	3	1	1
前置胎盤等	49	26	16	10	8	2	10
頸管等裂傷	130	78	53	25	30	12	8
その他							
遅延分娩	141	90	65	25	31	10	10
異常出血	92	55	41	14	21	7	6
児の状態							
仮死産(蘇生)	33	20	14	6	6	6	1
死産	6	3	1	2	1	1	
早期新生児死亡	②	①	①		①		
児の体重(分娩時)							
2,500g以下	77	55	42	13	12	5	4
2,501~2,999g	250	153	106	47	59	24	13
3,000~3,499g	473	321	219	102	99	27	25
3,500~3,999g	161	95	73	22	33	16	14
4,000g以上	22	14	11	3	4	1	1
無回答	4	1	1		1	2	
産状母乳分泌不良	117	75	52	23	25	7	9
褥瘡復古不全	46	30	24	6	9	2	4

注) 分娩時の児の体重が2,501~3,999gの場合は分娩の異常ではない。

(構成比%)

毎 月 三 日 休 ん だ	総 数	休 ま た な か	不 要	休 か め た な	時 々 休 ん だ	毎 月 一 日 休 ん だ	毎 月 二 日 休 ん だ	毎 月 三 日 休 ん だ
8	(1000) 1000	(646) 1000	(456) 1000	(190) 1000	(212) 1000	(76) 1000	(58) 1000	(08) 1000
8	725	712	710	717	702	813	807	1000
2	80	72	74	70	63	107	175	250
4	312	313	297	353	255	413	351	500
1	34	30	33	21	34	40	70	
1	40	44	33	70	34	40		125
2	123	124	127	118	115	147	175	250
1	111	115	103	144	72	187	105	125
1	294	288	286	294	288	373	298	125
7	443	422	397	481	471	400	561	875
7	549	510	513	503	582	613	737	875
	06	06	07	05	05		18	
2	105	86	81	97	106	107	304	250
	56	54	54	54	39	93	107	
	66	70	67	75	63		88	
6	389	366	375	344	406	373	554	750
3	151	135	153	91	164	187	214	375
1	98	82	83	81	130	133	107	125
	10	13	16	05	05		18	
1	93	89	92	81	87	80	179	125
1	18	19	18	22	14	13	18	125
3	50	41	36	54	39	27	179	375
2	133	124	119	134	145	160	143	250
	144	143	146	134	150	133	179	
3	94	87	92	75	101	93	107	375
	34	31	31	32	29	80	18	
1	06	05	02	11	05	13		125
	(02)	(02)	(02)		(05)			
1	78	86	93	70	58	67	70	125
1	253	239	235	251	284	320	228	125
1	470	502	485	545	476	360	439	125
3	163	149	162	118	159	213	246	375
2	23	22	24	16	19	13	18	250
	04	02	02		05	27		
1	120	119	117	124	121	93	161	125
1	47	48	54	32	43	27	71	125

第16表 国・地方公共団体に対する要望事項 一勤続・非勤続職種別一

(実数)
(M.A)

職 種	要 望 事 項	総 数										継 続 勤 務 者										出 産 退 職 者												
		総 数	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額 中 の	産 前 休 業 の 延 長	産 後 休 業 の 延 長	乳 児 保 育 の 増 設	保 育 所 の 保 育	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他	計	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額 中 の	産 前 休 業 の 延 長	産 後 休 業 の 延 長	乳 児 保 育 の 増 設	保 育 所 の 保 育	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他	計	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額 中 の	産 前 休 業 の 延 長	産 後 休 業 の 延 長	乳 児 保 育 の 増 設	保 育 所 の 保 育	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他
総 数		983	284	271	459	144	132	317	546	250	3	15	610	146	136	313	83	71	225	420	196	2	10	373	138	135	146	61	61	92	126	54	1	5
一 般 事 務		418	136	137	171	71	64	127	195	73	3	4	198	48	58	99	33	24	78	131	53	2	2	220	88	79	72	38	40	49	64	20	1	2
店 員		51	12	14	11	10	8	18	21	13			25	2	3	3	5	3	9	14	6			26	10	11	8	5	5	9	7	7		
工 員		72	15	17	28	17	9	22	21	11			38	4	3	15	7	5	14	7	8			34	11	14	13	10	4	8	14	3		
教 員		166	36	31	134	8	9	50	147	73		7	153	31	29	122	8	8	45	136	68		7	13	5	2	12		1	5	11	5		
看 護 婦 等 (注)		61	23	14	37	10	7	20	43	20			50	19	12	27	8	6	17	38	15			11	4		10	2	1	3	5	4		
保 母		24	6	9	9	5	3	6	15	5		1	20	5	9	7	5	2	4	13	4			4	1	6	2		1	2	2	1		1
キーバンチャー タイピスト		39	17	12	18	3	6	13	22	8			23	10	6	8	2	2	9	16	5			16	7	6	10	1	4	4	6	3		
電話 交換 手		56	18	12	12	9	15	30	32	21			43	16	9	7	8	15	30	26	18			13	2	3	5	1			6	3		
理・美容 師		9		2	2		1	1	6	2			3					1	1	2				6		2	2				4	2		
そ の 他		87	21	23	37	11	10	30	44	24		3	57	11	7	25	7	5	18	37	18		1	30	10	16	12	4	5	12	7	6		2

(注) 保健婦・助産婦・看護婦

第16表 国・地方公共団体に対する要望事項 一勤続・非勤続職種別一

(構成比%)
(M, A)

職 種	要 望 事 項	総 数											勤 続 勤 務 者											出 産 退 職 者										
		総 数	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額	産 期 間 の 延 長	産 後 休 業 長	乳 児 保 育 設 置	保 育 所 の 保 育 長	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他	計	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額	産 期 間 の 延 長	産 後 休 業 長	乳 児 保 育 設 置	保 育 所 の 保 育 長	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他	計	妊時 差 中 通 の 勤	つ わ り 休 暇	育 児 休 業	給 付 金 増 額	産 期 間 の 延 長	産 後 休 業 長	乳 児 保 育 設 置	保 育 所 の 保 育 長	出 産 保 費 適 用 の 化	そ の 他
総 数		1000	289	276	467	146	134	322	555	254	0.3	152	1000	239	222	513	136	116	369	689	30.5	0.3	1.6	1000	370	361	391	164	164	247	338	145	0.3	1.3
一 般 事 務		1000	325	328	409	170	153	304	467	175	0.7	1.0	1000	24	293	500	167	121	394	662	268	1.0	1.0	1000	400	359	327	173	182	223	291	91	0.5	1.0
店 員		1000	235	275	216	196	157	353	412	255			1000	80	120	120	200	120	360	560	240			1000	385	423	308	192	192	346	269	269		
工 員		1000	208	236	389	236	125	306	292	153			1000	105	79	395	184	132	368	184	211			1000	324	412	382	294	118	235	412	88		
教 員		1000	217	187	807	48	54	301	886	440		4.2	1000	203	190	797	52	52	294	889	444		4.6	1000	385	154	923		77	385	846	385		
看護婦等 (注)		1000	377	230	607	164	115	328	705	328			1000	380	240	540	160	120	340	760	320			1000	364	182	909	182	91	223	455	364		
保 母		1000	250	375	375	208	125	250	625	208		4.2	1000	250	450	350	250	100	200	650	200			1000	250		500		250	500	500	250		250
キーパンチャー タイピスト		1000	436	308	462	77	154	333	564	205			1000	435	261	348	87	87	391	696	217			1000	438	375	625	63	250	250	375	188		
電話交換手		1000	321	214	214	161	268	536	571	375			1000	372	209	163	186	349	398	605	419			1000	154	231	385	77			462	231		
理・美容師		1000		222	222		111	111	667	222			1000					333	333	667				1000		333	333				667	333		
そ の 他		1000	241	264	425	126	115	345	506	276			1000	193	123	439	123	88	316	649	316		1.8	1000	333	533	400	133	166	400	233	200		67

(注) 保健婦・助産婦・看護婦

勤労婦人の妊娠・出産に関する調査（調査票１）

労働省 婦人少年局

！ おねがい

この調査は、最近いちじるしく増加している、働きながら妊娠・出産する婦人の実態を知ることによって、働く婦人の母性の健康管理のあり方についての検討の資料とするものです。この調査へのあなたの回答が外部にもれてあなたにご迷惑をかけることは絶対にありませんので、お疲れのところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

2 記入のしかた

(1) ()の中には必要な符号または数字を書いて下さい。ゼロの場合は０と書いて下さい。

(2) イ………、ロ………のように書いてあるところには、あてはまるものに○をつけて下さい。

- 記入年月日 昭和()年()月()日
- あなたの名 姓 ()
- あなたの生年 月 ()年()月
- 今回の出産年月日 昭和()年()月()日
- 今回の出産を含めた出産回数は何回ですか。()回
(出産とは妊娠４カ月以降の分娩をいい、流産・死産を含みます。)
- 過去に流産・死産または早産の経験がありますか。(上記５のうち流産等があれば、それも含みます。)
イ、ある()回 死産()回 早産()回
ロ、ない
- 学齢前の子供はいますか。(今回生まれた児を除く。)
イ、いる()人 ロ、いない
↓
7-2 現在、保育はどうしていますか。
イ 保育所に預けている ロ 職場の保育施設に預けている
ハ 近所の人に預けている ニ 家族・親戚の人が世話をしている ホ 家事手伝いの人が世話をしている
ヘ その他()
- 妊娠中勤務していた事業所での勤続年数は何年ですか。()年
- 今回の出産のあとに勤務を続けますか。
イ 続ける ロ まだ決めていない ハ やめる
ニ やめた(妊娠 カ月のとき)
- あなたは妊娠する前、生活のため勤務を休みましたか。
イ 毎月経時()日休んだ ロ 時々休んだ
ハ 休まなかった
↓
10-2 イ 必要なかった

妊娠中のあなたの家庭生活について記入して下さい。

- 妊娠中の家族数 計()人
↓該当する人に○をつけて下さい。
(本人 夫 子()人 実母 夫の母
その他()人)
- あなたの妊娠中、家事労働を主に担当したのは誰ですか。
イ 本人 ロ 実母 ハ 夫の母 ニ 夫
ホ その他()
- 妊娠中どんな住居の形態に住んでいましたか。
イ 平家 ロ 二階家 ハ アパート()階
↓3-2 妊娠中ひんばんに家で階段の昇降を
しましたか。
イ した ロ しなかった
ニ その他()
- 妊娠中あなたが住んでいた住居の環境はどうでしたか。
イ 良い ロ 普通
ハ 悪かった
↓
4-2 悪かった理由は何ですか。あてはまるもの全部に○をつけて下さい。
イ 日当たりが悪い。 ロ 騒音がうるさい。
ハ 空気が悪い ニ その他()

今回の妊娠中のあなたの仕事について記入して下さい。

- あなたが妊娠したときにかつしていた仕事は何ですか。
イ 一般事務 ロ 店員 ハ 工員 ニ 教員 ホ 保
健康・助産婦・看護婦 ヘ キーパンチャー・タイピスト
ト 電話交換手 チ 風・美容師 リ その他()
- その仕事は主にどのような姿勢で行っていましたか。
イ 立作業 ロ 中腰作業 ハ 腰かけ作業 ニ 歩き作業
ホ 立ったり腰かけたりする作業 ヘ その他()
- その仕事は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの全部に○をつけて下さい。
イ 非常に精神または神経の緊張を要する仕事
ロ ベルトコンベア作業のように任意に中断できない仕事
ハ 重い物を持ち上げたり、運んだりする仕事
ニ 身体に動揺、振動または衝撃を与える仕事
ホ 有害な化学物質や放射線等を取り扱う仕事→
物質名()
ヘ 階段をひんばんに昇降する仕事
ト 身体が冷える仕事
チ 同じ動作をくりかえす仕事
リ 同じ姿勢を長時間続ける仕事
ヌ エレベーターの操作等、上下の動きの激しい仕事

4. その仕事の作業環境はどうでしたか。

- (1) 温度 イ 適温 □ 高温 ハ 低湿(付) 冷房
あり (付) 冷房なし) = 外との温度差が
大きい
- (2) ばり、臭気 イ 気になった □ 気にならなかった
- (3) 騒音 イ 気になった □ 気にならなかった
- (4) 床の状態 イ コンタリート(付) 木がたまっている
(付) 乾燥している)
□ 土間 ハ 板敷 = リノリウム
ホ その他()

5. その仕事の作業時間はどうでしたか。

- (1) 平日の労働時間(残業時間を含まない)
()時間()分
- (2) 休憩時間 計()分 ()回
- (3) 残業 イ あり □ なし
1ヵ月間の残業時間 平均()時間
- (4) 妊娠したために上の労働時間が短くなりましたか。
イ 短くなった □ 短くならなかった
(4)-2 イ 始業または終業時刻が変更された
□ 休憩時間が長くなった
ハ 残業を免除された
ニ その他()

6. あなたの職場では、女子の交替勤務がありましたか。

- イ あった □ なかった
6-2 あなたは妊娠したと分ったとき交替制勤務についていまし
たか。
イ ついていた □ ついていなかった
6-3 妊娠したため交替制勤務を免除されましたか。
イ 免除された □ 免除されなかった

7. あなたの職場では女子が深夜業(午後10時から午前5時までの
間における仕事)をする仕事がありましたか。

- イ あった □ なかった
7-2 あなたは妊娠したと分ったとき、深夜業をする仕事につ
いていましたか。
イ ついていた(1ヵ月()回位)
□ ついていなかった
7-3 妊娠したため深夜業を免除されましたか。
イ 免除された □ 深夜勤務の回数がへった
ハ 全然免除されなかった

8. あなたは妊娠してから仕事のやり方、職場などが変わりましたか。

(たとえば、立作業が座かけ作業に変わることなど)

- イ 変った
8-2 (1) どんな仕事に変わりましたか。
()
(2) 妊娠何ヵ月で変わりましたか。

()ヵ月

- (3) 仕事が変わったのは妊娠したためですか。
イ はい □ 妊娠とは無関係
(3)-2 あなたが申し出て変ったのですか。
イ はい
□ 妊娠したので変るよう言われて変った。
(4) 変って楽になりましたか。
イ 楽になった
□ 前と変らなかった
ハ 変ってつらくなった
(4)-2 楽にならなかった理由を分りやす
く書いて下さい。

- 変らなかった
8-3 楽な仕事に変えてくれるよう申し出ましたか。
イ 申し出なかった □ 申し出たが変らなかった
8-4 申し出なかった理由は何ですか。
イ 辛くなかった
□ 変えてもらえることを知らなかった
ハ 仕事の都合で申し出にくかった
ニ 申し出て駄目だと思った
ホ その他()

9. あなたは妊娠中、妊娠に関係のあることで産前休業以外に職場を
休みましたか。

- イ 休んだ □ 休まなかった
理由(あてはまる理由全部について記入して下さい。)
(イ) 定期検診のため ()日
(ロ) 母親学級出席のため ()日
(ハ) つわりのため ()日
(ニ) 流産・早産のおそれがあったため ()日
(ホ) 妊娠中に他症その他妊娠による障害のため()日
(ロ) 休業のため ()日
(ホ) その他()のため()日

10. あなたは、産前休業をとりましたか。

- イ とった □ とらなかった
10-2 あなたはいつから産前休業に入りましたか。(産前休
業の日数には出産当日を含みます。)
↓ ()年()月()日から
()日間
10-3 あなたの職場では産前休業を何週間(または何日)と
れることになっていましたか。
イ 産前()週間 (または()日)
□ 産前産後通算して()週間(または()日)
10-4 産前休業の日数が職場の定めより短かった場合、理
由は何ですか。あてはまるものを全部に○をつけて下さい。

- イ 予定日より()日早く出産したため
□ 体の調子が良かったため
ハ 仕事が忙しくて休めなかった
ニ 勤めに出る方が楽だったため
ホ 産前休業期間が無給であったため
ヘ 産後長く休みたかったため
ト その他()
10-5 産前休業をとらなかった理由は何ですか。
イ 流産のため □ 早産のため
ハ 体の調子が良かったため = その他()

あなたの妊娠中の通勤状況について記入して下さい。

1. 通勤時間および方法
片道合計()時間()分
内訳 徒歩()分
自転車()分
自家用車()分(運転者 イ・本人 □ その他
バス()分
電 車()分
その他()()分
1-2 妊娠の程度はどの位でしたか。
イ 常にすわれた □ 時々すわれた
ハ 肩のふれあう車中で常に立っていた
ニ ひどい混雑の中で常に立っていた
ホ その他()

2. 通勤の途中でひんばんに駅や歩道橋の階段を昇降しましたか。

- イ した □ しなかった

3. 妊娠中通勤で苦痛を感じましたか。

- イ 感じた □ 感じなかった
どんなことが一番つらかったか、わかりやすく書いて下さい。

4. 妊娠中通勤を楽にするため特別のことをしましたか。

- イ した □ しなかった
4-2 どんなことをしたのか、あてはまるものを全部に○をつ
けて下さい。
イ 時差通勤 □ 自家用車、タクシーの利用
ハ 職場の近くに転居 □ 勤務場所の変更
ホ その他()

そ の 他

5. あなたは妊娠中十分休業がとれたと思いますか。

- イ とれなかったと思う □ とれたと思う
1-2 理由は何ですか、あてはまるものを全部に○をつけて
下さい。
イ 仕事が忙しかったため
□ 家事、育児が大変だったため

- ハ 職場で休業する場所がなかったため
ニ その他()のため

2. あなたは、妊娠中十分睡眠がとれましたか。

- イ とれなかった □ 大体とれた ハ 十分とれた
2-2 とれなかった理由は何ですか。あてはまるものを全部
に○をつけて下さい。
イ 仕事が忙しかったため
□ 家事、育児が大変だったため
ハ いろいろして眠れなかった
ニ その他()のため

3. あなたは妊娠中十分栄養をとることができましたか。

- イ とれなかった □ 大体とれた ハ 十分とれた
3-2 栄養をとれなかった理由は何ですか。あてはまるもの
の全部に○をつけて下さい。
イ 食べたもので料理が良くできなかったため
□ 食欲がなかったため
ハ その他()のため

4. あなたは妊娠中、医師・助産婦などの指示を守ることができま
したか。

- イ 守ることができなかった □ 守ることができた
4-2 守ることができなかった事柄とその理由を分りやす
く書いて下さい。
事 柄()
理 由()

5. あなたが今回の妊娠中、困ったり、つらかったりしたことは何で
すか。分りやすく書いて下さい。

- (1) 仕事について()
(2) 家庭生活について()
(3) その他()

6. 妊娠や出産に関して、国や地方自治体、事業主などにしてほしい
ことは何ですか。特に希望することに○をつけて下さい(3以内)。

- イ 妊娠中の時差通勤 □ つわり休暇 ハ 育児休業(育
児のため一定期間仕事を休むことができる制度) = 休業中
の給付金の増額 ホ 産前の休業期間の延長 ヘ 産後の休
業期間の延長 ト 乳児保育施設の増設 チ 保育所の保育
時間の延長 リ その他()

7. 以上のほか、特に書きたいと思うことがありましたら自由に書い
て下さい。

勤労婦人の妊娠・出産に関する調査（調査票2）

労働省婦人少年局

妊産婦氏名	記入者氏名	病（産）院
-------	-------	-------

1. 妊娠経過（流産した者については太枠の中のみ記入）

つわり	強中弱	治療（有・無） 休養の指示（有（ ）日・無（ ））
後期妊娠中毒症	高血圧（有・無） 尿蛋白（有・無） 浮腫（有・無） その他（ ）	
流・早産の徴候	流産の徴候（有・無） 早産の徴候（有・無）	
貧血	有・無	
その他特記事項		

2. 流産経過（8カ月未満の流産とし、経済的適応による人工妊娠中絶を除く。）

時期	（ ）週（ ）日
理由	イ 合併症の人工妊娠中絶 合併症（ ） ロ 自然流産（稽留流産を含む。） ハ 胎状奇胎 ニ 子宮外妊娠 ホ その他（ ）

3. 分娩経過（8カ月以降）

在胎日数	分娩所要時間	胎位	出血量	分娩様式	分娩時異状
（ ）週 （ ）日	（ ）時間 （ ）分	イ 頭位 ロ 骨盤位 ハ 横位	ml	イ 経膈 ロ 帝王切開	イ なし ロ 前期破水 ハ 微弱陣痛 ニ 双胎 ホ 児頭骨盤不適合 ヘ 常位胎盤早期剝離 ト その他（ ）
イ 生産 ロ 仮死産（蘇生・死亡） ハ 死産（自然・人工） ニ 早期新生児死亡	新生児の性・生下時体重 性（男・女） （ ）g		奇形の有無 無有（ ）		

4. 産褥経過

復故現象	母乳分泌	その他特記事項
良・不良	良・不良	

勤労婦人の妊娠・出産に関する調査

— 昭和48年 —

発行 労働省婦人少年局
東京都千代田区大手町1-3-1

編集 婦人労働課
電話(211)7451内線259

印刷 (株)芳文社 (356)5887
